

流域の人々と歩む月刊誌

くまがわ春秋

2016

7

第4号

災害に向きあう



「日の出の球磨川」 © 山口 啓二

火の国、水の国、
焼酎の国。

球磨焼酎

織月



織月酒造株式会社
宇梶 剛士



世界的な品評会で
金賞を受賞いたしました。

Los Angeles
Wine & Spirits
Competition 2015



飲酒は20歳を過ぎた後から、飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を及ぼすおそれがあります。

織月酒造株式会社
<http://www.sengetsu.co.jp/>
〒868-0052 熊本県人吉市新町1番地

月刊 くまがわ春秋 第4号 2016年7月9日発行

企画：人吉球磨総合研究会 発行：人吉中央出版社

〒868-0086 熊本県人吉市下原田町瓜生田 675-3

TEL・FAX 0966-22-7601

<http://www.hiroyoshi.co.jp/>

info@hiroyoshi.co.jp

定価 540円

本体 500円

雑誌 81779-07



4910817790765
00500

今月の一言『文読む月日』

(レフ・トルストイ編著
北御門二郎訳)

より

人生は学校であり、そこでの失敗は成功よりもすぐれた教師である。

(スレイマン・グラナードスキー)

表紙

「日の出の球磨川」

人吉市相良町から
上流を眺める

(撮影／山口啓二。写真家
人吉市養野町)



お母さんのふとん

湯前小三年 栗原みどり

お母さんのふとんはあったかい

お母さんのふとんに入るとつい

「あったかい。」

と言う。

だから寒い日には

お母さんのふとんのとりあい

姉妹ゲンカで勝ったら

「やった!!」

と言さげふ

負けたらとてもくやしい

でも

ふとんよりも

お母さんが一番

【評】お母さんのお布団はただ温かいだけではなく、一緒に寝ること大好きなお母さんの心の温かさまで伝わるのだろう。最後の三行に作者の本音が見えている。



中原小4年
平田じゅりん

今月の詩 ④

人吉球磨児童生徒文詩集「やまざり」から

第34号(2006年3月発行) 選・作文の会

第4号目次

ひろしの「げっかん・ぎひょう」／3

流域だより「ヤマセミも市の鳥に」／4

ふるさと遊び図鑑③ 松舟博満／5

球磨川の駅・ものがたり④ 松本晋一／6

東儀一郎「なつかし昭和の写真館④」／12

里山の恵みをいただく③森屋浩美／14

定吉が行く④「職務質問その2」鳥飼博／15

ほいくのなかで描いた絵④「むつみ保育園」／18

柳人があじわう漱石俳句④ いわさき楊子／19

記憶の落ち穂④ 坂本福治／20



くまがわ春秋歌壇「いもご短歌会」／30

KUMAGAWA is my treasure. 迫田重光／31

鶴鶴短歌会 六月詠草／58

くまがわエッセー「川村民族」瀬戸致行／59

郡築干拓の農業④磯田毅／60

方言を味わう④前田一洋／62

くまがわ狂句村上鬼拳／66

山に行こうよ!①／67

人吉藩の地震①尾方保之／68

上杉芳野のあがつ段③「バラバラ組」／72

マグナ・カルタ⑦鶴上寛治／74

お寺と戦争④山本隆英／77

東京オリンピック④荻田吉富／79

昭和二十三年に父が記した遺稿④片岡和紘／81

くまがわの神さん仏さん②宮原信晃／84

楸邨の〈目〉Ⅱ根源への遡及 永田満徳／86

字図で見る球磨の地名④上村重次／89

情報ピックアップ／94

読者の声／95

編集後記／96



災害に向き合う

球磨川流域に見る、自然を生きる技術①森明香／21

「洪水と鯉と台湾ドジョウ」牛嶋将克／27

八代市役所・本庁舎の罹災／33

「マサカはいきなりやってくる」緒方雅子／35

「坂本地域の地震を考える」つる 詳子／37

「震災復興とオリンピック」黒木 紀 43

「地震と精神科医(断章)」興野康也 45

「明治熊本地震」と関谷清景 木崎康弘／48

※緊急の原稿を優先したため一部
の連載をお休みいたしました。

イギリス・ギリシャ・熊本

先月24日、イギリスは国民投票を実施しEU（欧州連合）からの離脱を決めた。離脱派は、その日を「独立記念日」と呼ぶ。イギリスは独立国だが、EUの二員でいるかぎりその決定に拘束され、EUに「従属」する。「従属」したくなければそこから離れるしかない。離脱派はそれを求めた。彼らは、遠く離れたブリュッセル（EU本部の所在地）で、見ず知らずの者が自分たちの生活を決定している状況が嫌で嫌でたまらなかった。それゆえ彼らは離脱決定日を「独立記念日」という。

EUの「厄介者」といえば、ギリシャであろう。いくら財政援助をしても、いっこうに財政は「再建」されない。それどころか、ギリシャの「借金」は増えつづけ、一部のEU加盟国はギリシャを罵倒してやまない。そりゃ、そうだろう。他人の借金のツケを払いつづけるほど馬鹿げたことはない。自分たちだって、お金に苦労しているのだ。それなのにギリシャは甘い汁を吸いつづけているというわけだ。それが事実を正確に反映した認識かは別にして、そのようにみている国が確実に存在している。そうした国からすれば、イギリスではなく、ギリシャに離脱してほしかったであろう。ギリシャ内にも、EUの「横暴」・他国の非難を嫌いEUからの離脱を主張している人は多い。しかし多数派は存続を望んでいる。EUの支援がなければ破綻を免れないからである。

次元はちがうけれども、熊本もお金に苦労している。地震被害は甚大で、それへの対応は熊本の財政力をはるかに超えている。そこで政府に対し復興特別法の制定を求めているが、いまのところ政府は、そうした方向にうごいていない。熊本人からすれば、政府はあまりにも遠く、ギリシャ扱いしているようにもみえる。特別法の制定は「努力したけれど、駄目だった」ではすまない問題である。

（編集部）

最近のおもな出来事

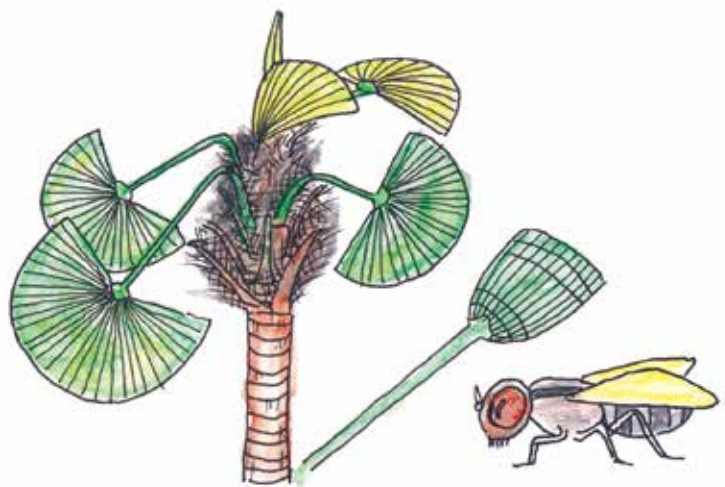
- 【6月16日（金）】
- ▽求麻郷土研6月例会「木上地区文化財調査」
- 【6月17日（金）】
- ▽熊本復興支援「球磨川ジャズの夕べ」（球磨村石の交流館「やまなみ」）
- ▽人吉労音クラシックの会「伊賀あゆみ&山口雅敏ピアノ・デュオコンサート」
- ▽第22回人吉球磨書道連盟展（～19日）
- 【6月19日（日）】
- ▽第33回相良村民ビーチバレー大会
- 【6月26日（日）】
- ▽熊本地震復興支援コンサート（八代市厚生会館）
- ▽田舎の交流館さんがうら「ブルーベリー狩りとジャム作り」
- 【6月30日（木）】
- ▽ひとよしくまこども劇場例会「グレゴの音楽一座」
- 【7月9日（土）】
- ▽「シーサミットあしきた」（～10日）
- 【7月10日（日）】
- ▽参議院議員選挙投・開票
- ▽「立ち上られ熊本!!・立ち上られ東日本!!」復興支援チャリティーショー（あさぎり町須恵文化ホール）



ひょっとか…
げっかん・ぎびょう

—イギリスが国民投票でEUから離脱。世界経済に暗雲—

「まさか離脱するとは？ キャメロン首相は大きなショック!! わずかの差で国内が割れた。EUから出たら関税がかかる。日本の企業もイギリスから出ていく。難民問題がその引き金になったとは…」



シュロの木とひや

たいていん家にやシュロの木ん
植えてあつて、三角か枝んぐたつ
とん出て、その先ん扇子ば広
げたごとした葉のちいつて、付
け根ん所にや毛のぐたつとんちい
とつたで、そん皮ばひやで池ん浸
けて、鯉のイヲの卵ば産み付くつ
とこつば作つたりしおつた。
牛馬で田畑ば耕しおつやいた
で、濡れたつちや良かぐたる丈夫
んかナワのいつおつたで、シュロ
ん皮ばひやでワラでナワば編むご
つして燃つていたで、牛馬ん引か
するスキやマンガに付けて耕しお
いやいた。
枝は三角で下ん方は丸うし
とつて、横ん方はギザギザしとつ
たで、扇子んごとしとる葉ば引
き裂やてから、編み良かこて半

分でうち切つて、紡績糸で編う
でいたで四段編うで、五寸ばつ
かりん所つでうち切つて「ひや叩
き」ん出け上がった。
どこん家でつちや牛馬ば飼う
とつやいたもんで、「ひや」のずびや
おつて飯食う時でんおどもよま
早よう飯台上つうできとつさみや
んが茶碗の縁い止まつて狙るう
とつた。昼寝しとれば身体のあつ
ちこつちんほうどつさみやこちよ
ぐつてさりいて、寝てどまおられ
んじやつたでひや叩きで打つてさ
けば、どつか逃げておらんめえひ
なつたでどもつて寝れば、いつちよ
来二つ来て、又こちよぐつさ
始むつとじやつた。

【まつふね・ひろみつ。青井
阿蘇神社・文化苑「童遊館」】

域より
流だ

ヤマセミも市の鳥に

—人吉市で要望相次ぐ—

現在、人吉市の鳥はウグ
イスである（昭和47年制定）
が、これに加えて「ヤマセミ」
を、「市のシンボルの鳥」に
しようとする動きが人吉市
で相次いでいる。ヤマセミは
山深い溪流や湖沼に生息す



人吉市で撮影されたヤマセミ
（© 新庄俊郎）

る警戒心の強い野鳥で、J
R九州が来春から熊本〜人
吉間で運行する観光列車「か
わせみ やませみ」にも使
用されている。

野鳥愛好家らが 追加指定要望

長年ヤマセミを人吉市の
鳥にしたいと働きかけきた
市民有志が6月21日、松岡
隼人市長に要望書を提出し
た。地元の古江之さん（日
本野鳥の会）らの活動知っ
た東京の新庄俊郎さんが、

古江さんらの活動を知り、22
名の賛同者を得たことで実現
した。新庄さんは、人吉のヤ
マセミに感激し、その生態研
究や写真集も出版している熱
烈なヤマセミのファン。

この日は有志の代表とし
て八代野鳥愛好会の高野茂
樹さんと古江さんが市庁舎
を訪れた。二人は「街中で



「ヤマセミ」の写真集を手にする高野さん
（左）と、要望書を手にする古江さん

ヤマセミが舞い、人間が生
活していても逃げないという
全国的にも珍しい人吉のヤ
マセミを広くアピールしてい
きたい」と語った。

人吉観光案内人団体 「吉組」も署名集め

人吉駅を中心に地元の
観光ピーアール活動が続け
ている人吉観光案内人団体
「九州相良藩【吉組】」も
6月から署名集めをしてい
る。主宰の住吉則昭さん
は「観光活性化につなげる
ため、協力をお願いしたい」
と呼びかけており、人吉市
中青井町299番地の吉組
事務局で受け付けている。



図③完成時のダム見学バス
(昭和30年1月麦島氏)

よれば、瀬張り漁
張り網漁が盛んで、一
漁で10貫〜15貫と採
れるなど良い稼ぎに
なった。ダム完成後
放流振動などで補償
問題が生じたこのこ
と。

昭和24年、この駅は県営荒瀬ダム
建設工事のために乗降場を改修、ダ
ムが勤務、昭和22年には駅長が置かれ
た。対岸には同じ読みの破木はきの部落間
に渡し舟があり交流が盛んだったとの
こと。その百済木川合流点奥には「ざ
かもと温泉センタークレオン」が在る。
昭和24年、この駅は県営荒瀬ダム
建設工事のために乗降場を改修、ダ

や取水口も、平成29年度中には完全
撤去の予定とのこと。図③は完成当時
の荒瀬ダム(本誌第3号38頁の山下
清画伯撮影場所は右上)、見学用の
ボンネットバスの風情が懐かしい。人
吉から熊本に向かう「上り」車上か
らこの綺麗なダム湖を眺めるのだが、
直ぐにトンネルで、いつもダム本体は
しつかりと見えすじまいの感があった。
河口から19kmのこのダムの完成によ
り、木材搬出手段の一つで球磨川の風

物詩である「筏流し」が昭和30年に
は球磨川から消えることになる。この
辺りには37名の筏師が居られたとのこ
と、往時の筏乗りには川上から川下
にかけて様々な生活形態があったそう
である。筏流しは人吉でも小学生頃
まで、いつも目にした光景であった。
荒瀬ダムに因って十三の瀬、瀬戸石
ダムでは八つの瀬が無くなったとのこ
と。ダムで消えたもう一つの風情とし
て鮎漁がある。地元の下村勉さんに

葉木駅

葉木駅は藤本トンネルを抜け、旧
荒瀬ダム横を過ぎ、坂本駅から3.4
kmの地点に昭和17年12月、無人駅(仮
乗降場)として開設(八代市坂本町
葉木1684)された。開通当時は
上り4本、下り4本の列車が運用さ
れている。この「葉木」は昔ここに大

木があり、その木の葉が散る様子を表
した地名との伝承がある。昭和20年
11月には男子2名、女子4名の駅員
が勤務、昭和22年には駅長が置かれ
た。対岸には同じ読みの破木はきの部落間
に渡し舟があり交流が盛んだったとの
こと。その百済木川合流点奥には「ざ
かもと温泉センタークレオン」が在る。
昭和24年、この駅は県営荒瀬ダム
建設工事のために乗降場を改修、ダ



河口から上流まで、その駅を訪ねる 球磨川の駅・ものがたり

連載その④ 一葉木駅 鎌瀬駅

熊本産業遺産研究会 松本晋一



図①藤本トンネル直前の汽車(上り)



図②撤去されたダム本体

藤本トンネルと荒瀬ダム
坂本駅を過ぎると右手に旧藤本
発電所が見え、そこから直ぐに藤本
トンネル(462m)へと続く。そ
の向うには網場ノ瀬で大きくカーブ
する球磨川とその対岸に「道の駅坂
本」がある。以前は「下り」なら

トンネル出口から図①のように、景
色は昭和30年竣工の荒瀬ダム湖へと続
くのだが、平成22年(2010)の
水利権更新失効によりダム撤去が確
定、22年3月末には全ゲートを開放
本年3月には9つの門柱は完全に撤去
され、湖水面は昔に戻りつつある(図
②)。まだそのままのダム管理事務所



図⑧現在の葉木駅

瀬（ヒラ岩）で球磨川を横切つて泳いで遊んだとのこと。葉木橋傍には以前の渡し場があり、昔は坂本村内で往来した渡し舟は下流の「古田の渡し」から上流の「楮木の渡し」まで13カ所もあったが、その多くはダムや橋梁の完成で廃止となったとのこと。またこの葉木と中流の神瀬は筏流し



図⑨荒瀬ダム湖を走るSL人吉号ポスター

の中継点でもあったされる。現在、駅前のヤシ樹木は10数年前に伐採、駅舎は解体され、ホーム両側に幅広の階段が付き、待合室は簡略化されている（図⑦）。昭和37年からは駅は民間委託されたが、昭和59年から無人駅である（図⑧）。平成12年の1日平均乗車人員56名が、同24年には25名と半減している。図⑨は肥薩線開通100周年記念の荒瀬ダム湖を走るSL人吉号の水戸岡鋭治氏のイメージポスター。次の鎌瀬駅まで



図⑨旧鶴之湯旅館

の途中、右岸の葉木トンネル横に古い木造三層の元鶴之湯旅館（図⑨）が目に入る。昭和30年の建築でダム湖観光を目的にした温泉宿（源泉は敷地内に自噴、泉脈は破木の湯脈線上）である。当時は葉木駅からの1kmをエンジン付き遊覧船が宿まで往復したとのこと、筆者も新築当時の



図④昭和47年の葉木駅（福井弘氏撮影）

ム水位の確保のため線路を5mほど山側に移動、高さも2m程度嵩上げされている。このダム湖を利用して同35年9月には第15回国体のボートレースが開催され、駅前の県道には熱帯ヤシを記念植樹、駅ホームも25mほど延長、集札口を仮設するほどの盛況であった（図④）。ダム湖（図⑤）



図⑤以前のダム湖（葉木橋から）

はその後も高校や大学、成人のボートの練習や試合で活用され、瀟洒なボートハウスは「くまもとアートポリス」推進賞を受けた。今は水面も5m前後下がり、ダム湖もなくなり、以前の流れに戻りつつある（図⑥）。葉木駅前をサイクリングしていた中年男性に聞くと、小さい頃はこの下の



図⑦待合所



図⑥水面低位と旧ボートハウス（右）

光景を記憶している。平成20年夏、「肥薩線の近代化遺産」で取材した頃より家屋の劣化が進んでいるのが気になった。

以前、葉木駅前
に鎮座した
鶴像（図④）の階段
左端（も
撤去され
ここに置
かれたま
まである（図⑩）。



図⑩セメント鶴像（右）

は西人吉駅と同じく一番最後の駅。当初から無人駅1面ホームで、手荷物取扱のない停留所である（図⑪）。普通列車の上り10本、下り10本が停車するが、平成12年の平均乗車人員46名が同24年は9名に減っている。ここも葉木駅同様ダム貯水のため築堤が嵩上げされた。この鎌瀬駅が球磨川右岸駅の最後となる。

鎌瀬駅も列車気動化に伴う請願駅として昭和27年6月1日に開業（八代市坂本町鎌瀬279）、この川線で

昭和58年5月の「熊本の駅と港」によれば近くの青年団がホームに花壇を造り、菊や水仙、ツツジを植えたとのこと。付近にはヨケンの滝、傍にも歯痛に効くという厄除け地蔵もあり、球磨川の水を供えれば歯痛に効果があるという。駅傍の笹田タミ子さんのお店（現在は閉店）には、近年の鉄ちゃんブームで有名な（南ちゃん、林家三平他）らが球磨川第一橋



図⑪鎌瀬駅（上り方面）

梁の写真取材に訪れたとのこと（写真⑫）。息子さんのお話では当時のダム湖ではハエ、鯉、ウナギなどが釣れ、テトラポット上に石亀、くさ亀がよく甲羅を干していたとのこと。

球磨川はここで大きく東にカーブ、鎌瀬駅からすぐに全長205mの球磨川第一橋梁へと続き、川面を斜め

に横切る。この橋の製造元は球磨川第二橋梁と同様、トランケーテッドトラス形式・アメリカカンブリッジ社1908年製造であり、両者とも経産省の近代化産業遺産群の一つである（図⑬）。この橋も昭和28年の荒瀬ダム着工に伴い84cm程度嵩上げされたが、ダム開放後の今は水面も下がり、下流には瀬が見られるようになった（図⑭→）。駅

周辺と橋下からの眺めが、球磨川の緑と朱色の鉄橋がマッチした良い写真スポットである。

鉄道はこの第一橋梁を渡ると直ぐに鎌瀬トンネル（371m）に入る。次の第二橋梁（渡駅手前）までは球磨川左岸を走るが、逆に国道219号線は鎌瀬橋を渡ると渡の舟戸まで

球磨川右岸を並行して走る。ここで



図⑫旧笹田商店の写真



図⑬球磨川第一橋梁



図⑭橋の嵩上げと蘇った下流の瀬

○前回訂正…第3号46頁図①深
水発電所↓旧深木発電所

・前掲資料「坂本村史」各駅停車・熊本県
「くまもとの駅と港」「九州830駅・
各駅停車」「時代と共に」「肥薩線の近
近代化遺産」「川の記憶」「くま
みんMAP」インターネット・
ウィキペディア

・100年レイル肥薩線の旅（肥
薩線開通100周年記念事業
実行委員会）JR九州

・「麦島勝写真集・カメラがとら
えた八代の半世紀」平成17年
7月 八代市立博物館友の会

・道の駅坂本展示パネル・球磨
川の水運・球磨川の漁ほか

なつかし昭和の写真館 ④

撮影／東儀一郎

旧坂本村中心に昭和20年後半から40年後半までの出来事をカメラに収めていた故・東儀一郎さんが残した写真を紹介する。

荒瀬ダム湖 の筏

昭和29年12月25日に藤本発電所は商業発電を開始した（竣工は昭和30年3月末日）。荒瀬ダム完成後も筏流しはつづいた。ダム上流50メートル附近（左岸）に、筏の集積所があった。それより下流へはトラックで木材を運んだ。この写真は集積所近くを写したもので、昭和29年末から昭和30年半ばころのものとされる。全盛期の筏と較べると、小ぶりである。筏はカブラで固くしめられている。



鮎すくい

荒瀬ダム建設によって鮎は遡上できなくなった。しかし、一挙に、いなくなったわけではない。昭和40年代半ば頃までは鮎はずいぶんいた。ダムゲートが開くといちどに沢山の鮎がくだった。住民はその鮎を網でとっていた。ダム建設前にはなかった漁法である。30分ほどザルは鮎でいっぱいになった。おもしろいようにとれた。高齢者、女性、子どもの鮎とりで成人男性はほとんどこれをしなかった。

ゲート開放のサイレンが鳴ると女性や子供たちは一目散にダム下流に向かい鮎を網ですくった。鮎は八代の仲買人に売った。女性や子供は漁協の組合員でなく、形式的には、「違法」行為であった。漁協の「監視人」が見回りにきて、きびしく注意した。監視人の姿をみかけると二斉に漁をやめ逃げた。「かんし」は「悪い人」の代名詞であった。珍しかったのであろう、観光客の姿がある。住民はこうした観光客に鮎をプレゼントした。昭和31年前後の写真と思われる。

定吉が行く

— 4 —



© Keiichi Murakami

九州相良藩「吉組」大番頭 鳥飼 博

職務質問その2

警察官から職業を問われた男の発言を、何んとも言えぬ昂ぶった気持ちで今かいまかと待っている私の方に男に職業を尋ねた眼光の鋭い警察官が近づいて来た。

『こちらの男性の方とお知り合いですか?』と聞く。ストーカーとは言えないので『いいえ。』と答えたと同時に、『ああ、そうですか。ご苦勞様です。ご協力ありがとうございます。』と元気の良いもう一人の警察官の声が聞こえた。いったい何が起ったのか? 男は職業を何と答えたのか? 果たも、絶好のチャンスを逸してしまつた私は、もう三度目のチャンスは来ないだろうと思う悔しさに打ちひしが



れた。目で合図を交わした警察官たちは、男に一礼をし『ご苦勞様です。』とパトカーに戻り立ち去って行つた。眼光鋭い警察官への感謝の気持ちには『あゝ。馬鹿野郎!!』という声に変わつていた。職務質問を終えたばかりの男は、私の落胆の叫びが大きかったのか、一瞬『ジロリ』と私を睨み、すぐに『ニタツ』と微笑んだ。何も言わずに青井阿蘇神社の方へ踵を返した男は、再びゴミ拾いを始めた。一瞬で

里山の恵みをいただく③ こさん竹の揚げ餃子



解凍して揚げ餃子をつくってみよう!



森屋 浩美

今回は、冷凍したこさん竹を使います。

旬の竹の子の下茹でと 冷凍保存の仕方

- ①. 皮を剥ぎ、鍋に入るように切る
- ②. お鍋に切った、こさん竹とたっぷりの水を入れ火にかけます。沸騰したら弱火にし、落とし蓋をしてゆでます。
- ③. 茹で上がった、こさん竹の粗熱が取れたら水を切り袋に入れて冷凍します。

☆竹の子に含まれる主な栄養素

- ・疲労回復に、グルタミン酸やチロシン・アスパラギン酸など。旨み成分でもあるアミノ酸が含まれています。
- ・ナトリウムを排泄する役割があり、高血圧に効果があります。また、足などのむくみを取る作用もあるそうです。
- ・食べてもわかるとおり食物繊維を豊富に含んでいるため、便秘や大腸がんなどの予防に効果があります。

☆揚げ餃子の作り方

材料	
こさん竹	適量
たれ マヨネーズ	適量
〃 すりおろしにんにく	適量
〃 醤油	適量
〃 鰹節	1パック
餃子の皮	20枚

- ①. こさん竹は縦に切れ目を入れ水につけて解凍する
- ②. 水気をきった、こさん竹をみじん切りにする
- ③. ボールにみじん切りのこさん竹とたれ・鰹節を入れ混ぜる
- ④. ③の具を餃子の皮で包み、油で揚げる



【もりや・ひろみ。八代市坂本町】

はあつても男に睨まれてしまった私は、素知らぬ振りで反対側の歩道へ渡り、青井阿蘇神社へ先回りをして男が現れるのを待った。

男を待つ間に、この1時間に起こった出来事を思い返した。合点がいけないのは、警察官が私に声を掛け、それに返答するまでに掛かった時間はほんの数秒である。その間に男は自分の職業をもう一人の警察官に告げたのである。男の職業を聞いた警察官は、男の一言で納得をし、『ああ



はほんの数秒である。その間に男は自分の職業をもう一人の警察官に告げたのである。男の職業を聞いた警察官は、男の一言で納得をし、『ああ

そうですか。ご苦労様です。ご協力ありがとうございます。ございました。これからも頑張つて下さい。』と答えたのである。私は、既に楼門から境内に入り拝殿で参拝をする男を視野の片隅に置きながら考え続けた。

あれこれと考えていると、『あんたにや、よう会うな。青井さんでもよう見っばい。』と、声がした。誰かと思ひ顔を上げると、いつの間にか視界から消えたあの男だった。笑顔で声を掛けた男は、立ち止まることもなく『ご神木』の方へと行つてしまった。私は目で男を追いつながら、いつから気付かれていたのだらうと思うと同時に、これからのストーカーについても考え直さなければならぬと思った。

私はその日からしばらくの期間、

人吉駅や青井阿蘇神社には行かなかった。そのお陰で、男の職業についてじっくり考える時間が持てた。警察官の対応から推測していくと、かなり確率の高い予測ができた。まず、警察官ではない。だとすると、週末や祝日に限つて現れることから、警察官以外の公務員であると考えた。そう定義づけると、『ああ、そうですか。』も理解できる。あの時に男が公務員以外の職業を答えたとしたら、あの時間内で済むはずもなく、警察官はもつと深く質問を続けたに違いないと思われた。

入梅したばかりの6月初旬、青井阿蘇神社が『国宝』に指定された。地域としては待ちにまつた朗報であった。雨が続く季節なのに、観光バスは駐車場に困るほどの混雑をみせ、

自家用車での参拝客も増えていた。あの職務質問から2ヶ月以上が経っていた。今、あの男はどうしているのだろう。気になったら止め様もなく、週末を待つて人吉駅に向かった。

『からくり時計』の近くには、あの男と並んで派手な武者姿の男が陣取り、模造品の刀を抜いては振り回している。刀を鞘に戻す手付きもおぼつかない。男がチャンバラ好きの友人を誘ってきたのであらうと思った。その横では、男がいつもの様に観光客に『からくり時計』の説明をしていた。

その翌日も『からくり時計』の近くには、二人の姿があった。昨日と同じである。しばらく二人の様子を眺めていると、構内に一台のパトカーが停車した。パトカーから降りた二人

の警察官が男たちの方へと歩き出した。三度目のチャンスに巡り合えたと思つた私は、急ぎ足となり歩道の段差につまずく程に慌てていた。

2ヶ月前の二人とは違う警察官だと判ると、今日こそはと彼等に近づいた。すると、警察官に気付いた男は、近付いて来る警察官から遠ざかる様な動きを見せている。二人の警察官は、逃げる男には見向きもせず武者姿の男に声を掛けた。『こんなに人の多い所で、刀を振り回したら危なかでしょう。その刀を見せなさい。』と、強い口調で言った。武者姿の男は、『おもちやの刀だけん、大丈夫ですたい。危のうはなかでしょ。切れもせんとですけん。』と応じた。すると、もう一人の年配の警察官が『切れんでも剣先が目にも当たつたら失明すつこと

もあつし、子供に当たれば怪我すつこともあつた。』と、大きな声で叱責した。武者姿の男も口元を尖らせ怯まずに反論したが、警察官が言うことが当然だと思つし国家権力に敵うはずもない。押し問答はしばらく続いたが、刀を抜かせないために柄に封印をするということその場は収まった。

武者姿の男はその後幾度も注意を受け、人吉警察署まで運ばれたこともあつた様だ。そのお陰なのか、今は殺陣も上手くなり周囲を気遣いながら鮮やかに鞘に刀を収めている。今ではこの二人の男たちは、人吉駅と青井阿蘇神社の名物男となつている。

【とりかい・ひろし。人吉市】



柳人があじわう漱石俳句

— ④ —

いわさき楊子



る俳句だ。漱石ゆりの年齢でもある。

こちらの朝貌の句は都々逸にでも謡いたくな

1973

朝貌や惚れた女も三日 漱石 40歳

25歳で亡くなった兄嫁を忍んで詠んだ句。この二句をふくむ13句を追悼句として詠んでいる。漱石はこの兄嫁に恋心をいだいていたようだ。そのような青春もあっただろう。

君逝きて浮世に花はなかりけり

(漱石24歳)

朝貌や咲た許りの命哉

(漱石24歳)

へ三日三晩も想ふた女

今ぢや寝起の古女房へ

現在「顔」と「貌」は意味をことさらに重視してつかいわけ。「貌」はおよそ植物の朝顔からは遠いが、漱石俳句には「朝貌」の表記が8句もあり、「朝顔」は2句だけである。明治の時代にはそれほどのつかいわけはしていなかったとおもわれる。むしろ「貌」という字のほうが一般的だったのかもしれない。

だまされたふりの笑顔は美しく 楊子
夕顔のどれも視線をあわせない 〃



【いわさき楊子】 川柳誌「裸木」
編集人、熊本市

シリーズ

ほいくのなかで描いた絵④

むつみ保育園 (球磨郡多良木町)



当園はお寺の保育園です。毎日み仏様に手を合わせてお参りをしています。

今年も農家のお父さん方が園庭の畑にハウスを作ってくださったので、野菜作りを頑張っています。ナスにキュウリにトマト、パッションフルーツなどなど、お泊まり保育で食べるのを楽しみにしています。



社会福祉法人 むつみ保育園
球磨郡多良木町多良木 1581-2
定員 100 名 ☎ 0966-42-5096
開園時間 午前7時～午後7時 (延長保育含む)

その④

絵と文／坂本福治

同級生を決めた一言

記憶の落し穂



高校卒業記念の写真をコピー機で拡大すると、今は八十歳近いクラスメートたちの高校時代の姿が見える。すでにあの世に引越した者も多い。一人一人について、私との関わりのさまさまが思い出される。年賀状だけくれる友人、心の奥まで書いてくれた人、その他。皆、運命的な絆でつながっている気持ちが出ている。ところが、この仲間との出会いは、ある人の一言で決まったことを思い出した。

小学三年の時に朝鮮半島で終戦を迎え、一年間学校が無かった。引き揚げて水上村の岩野小学校に伯父と転校手続きに行った時、四年生のはずの年齢だった。手続きがすんで、校長先生がくるつと振り向いて、「何年から入るかね」と私に問われた。そんな大事なことを本人にたずねられ、驚いた。その時に私の頭に浮かんだのは、教室で答えられず立っている姿だった。自分で決めているのなら、と、「二年生からにします」と答えた。「それはあんまりだろう」と言われ、二度目の三年生となり、私の同級生が決まったのだった。

【さかもと・ふくじ。画家、人吉市】

球磨川流域に見る「自然を生きる技術」①

森 明香

1 はじめに

『自然を生きる技術―暮らしの民俗自然誌』（2005年、吉川弘文館）という本がある。民俗学者の篠原徹が著した本だ。篠原徹は、生態学を専攻し後に民俗学へと転向し、日本や世界各地でフィールドワークをしてきた。日



常に自然と対峙して暮らしの糧を得て生活する人びとの生きる方法を、「自然を生きる技術」として捉えようとしてきた人だ。

篠原によると、「自然を生きる技術」は、自然知と身体知と道具との組み合わせから成る。自然知とは、生物に関する生態学的な知識や、たとえば「採取してから口に入れるまでどのようにすればよいか」がわかる知識を指す。身体知とは、「経験的に獲得された身体を使う技法」であり、典型的な例として漁師の山アテがある（篠原2005…189）。いわば自然知を実施する身体の使い方、とも言えるだろう。

この考えに触れたとき、「我が意を得たり」とはこのことかと思った。頭に浮かんでいたのは、私が出会った球磨川流域に代々住む人びとの、川の傍で生きてきた在り方だった。篠原徹の「自然を生きる技術」という考え方によって、私が見聞きした人びとの在り方・お話が、何を示唆している

のか、理解する一助になる、と直感を抱いたのだ。

2 経緯

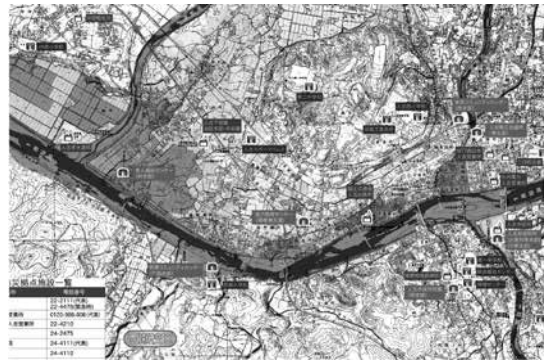
この本を知る直前の2012年の夏、私は人吉の市街地で、川の傍に代々住まう方々のところを回って話を聞かせてもらっていた。

周知のように、川辺川ダム計画は、昭和40年の「7・3水害」を直接の契機として翌41年（1966年）に球磨川の最大支流・川辺川に計画された、治水ダムである（後に多目的ダム）。流域社会では、この計画をめぐって多くの対立が惹起された。とりわけ利害に関わる人びとは、非自発的移転や補償金や工事をめぐる様々な経験を、余儀なくされた（その経緯については、熊本日日新聞編集局編2001、熊本日日新聞取材班2010をはじめ、当事者によるものも含めて、多くの記録がある）。その後ダム計画は、1990年代以降の全国的な「無駄な公共事業」に対する批判を背景に、「受益者」「受益地」と事業者に対する定される流域住民を中心とした粘り強い異議申し立てを受け、「受益地」とされた流域自治体および熊本県の首長によつ

て、2008年（平成20年）に白紙となった。

2012年当時、私は、流域へ通い始めてから8年が経っていた。「ダムは水害を引き起こす」。この言葉を、その間何度か耳にしていた。ぎつとそうなのだろう。そう思う一方で、「事業者から「川辺川ダムの受益地」とされた流域住民によるダム反対の論理と基盤を、私はおそらく心からは理解できていない」。そんなもどかしさを感じていた。

ダムの賛否を問わず、城下町の繁華街かつ水に浸かりやすいエリアの、長い年月を通時的に球磨川の傍で暮らしきたお宅の方々を主な対象に訪ね歩くことに決めたのは、もどかしさが募っていたからだと思う。2010年



出典：人吉市災害避難地図（市内全域）
<http://www.city.hitoyoshi.lg.jp/q/aview/211/6078.html>

の夏から1年ほど断続的な住み込みを行った経験も、後押しした。連綿と続いてきた川の傍での暮らしや水害時の対応の仕方について具体的に触れることで、直感としても論理においても、理解が深まるのではないかと感じていた。

回ったのは、人吉市が公開しているハザードマップで浸水被害が想定されている地域のうち、主として中心街近辺で少なくとも半世紀以上を住み続けているお宅である。延べ42軒、56名の方々にご協力をいただいた。調査時のインタビューとの約束に基づき、本人を特定できない範囲で、いくつかの語りを紹介したい。

3 球磨川流域住民の災害文化

まず、洪水が生じて避難が必要な状況を、どのようにして判断していたのだろうか。話を聞いて回る中で、川沿いの水害常習地であつても代々住み続けてきた人たちは、川の観察法ともいふべきものを有していることがうかがえた。

こつちは慣れたもんだけんが、球磨川見に行つて、「危ないな」と思つてその溝を見とれば、今まで流れよつた溝が

パタと止まつてね。それから「こつこつこつこつ」と上がつてくるわけ。なら「もう片付けようや」といふ話になつて。

長年ので、「やばいぞ」となつたときにはもう、すぐ片付けだして。大体この辺が一番、低いよね。だけが他所の地域も「おい、この辺が片付けだしたぞ、もうボチボチ上がつて」で、他のところも片付け出す。（Aさん、本流と支流との合流点近辺に在住、2012年8月筆者実施の聞き取り）

Aさんは、中心街では低地で、球磨川の支流のバックウオーターによつて早い段階で浸水するエリアに住む。生まれる前から毎年のように繰り返される大水の対応は、代々住み続けてきた近辺の人びとの間で経験則として培われた。家の周辺部にある、水位上昇を知らせる箇所を見つけて、タイミングを見計らつて避難の準備をしていた。

球磨川の水位が上がると、このへ家の敷地内に流れる川の水位と同じになるんです。それで、向こうまで見に行かなくて見なくても、ここを眺めていると、ああ、もう荷

物をあげなくちゃいけないとか、そういうことを子供心にもうわかるんで」「お母さん、もうあげていいんじゃないの」って。(Bさん、本流に隣接した低地に在住、2012年9月の聞き取り、〈〉は筆者)

やつは昔の、水ちやぶちやぶぐらい上がった方が、ねえ却って、みんなが訓練。ここ〈我が家〉に水が上がるときはそこば〈家の近所の低いエリア〉見に行つて、水がちやぶちやぶ上がったら、〈荷物を〉上げ出すよね。」「あ、もう上がる」って。それが目安だったの。(Cさん、本流と支流との合流点近辺に在住、2012年8月筆者実施の聞き取り、〈〉は筆者)

Bさん、Cさんも同様である。ちなみに、BさんはAさんと本流を挟んだ対岸にある地区に居住している。このような、本流が洪水になると本流や家の周辺に現れるサインを観察して被害を受けないように対応する様子は、他の方々からも教わった。

このようなお話もあった。本流と直接面した地に住まう

備をして、建具類を全部上げて、布団は押入れの二段目に乗せて。それで、もうそれ以上来ることはないですよ。(Dさん、本流に面した浸水しやすい地に在住、2013年9月筆者実施の聞き取り、〈〉は筆者)

Dさんのように流れを観察する仕方は、他所の流域でも見受けられる。たとえば、愛知県を流れる豊川流域の水害常習地の住民による「水見」は、その一例だ。環境民俗学者の野本寛一は、聞き取りに基づき、次のように述べている。「氾濫・水入りがある時は、豊川本流がカマボコ型になつて流れるという。つまり、兩岸の水位が低く、中央が盛り上がりついているというのである。…〈中略〉…人びとは、その盛り上がり方を見て『これはすごいのがくるぞ。』と語り、『水上げ』にとりかかった。…当古の家々はどこでも水あげ台と呼ばれる台を持っていた。高さ三尺、縦三尺、横一間ほどのもので、これに米・麦の俵を積みあげた」(野本2013…146―147)。

豊川の「水あげ台」とは異なるが、家の造りにも、水害常習地ならではの工夫が見られた。

Dさんは、本流の川面の様子と天気予報からの情報とを鑑みて、状況を判断し、対応していた。

自然の上がり方で、増すときは高いんですよ、流れは中央が高い。引き始めると、中央が低くなる。こういふうな状況と、水位の高さと上がり具合と、予報で上球磨が何ミリぐらい降つてくるかというのを聞いて、そして「こりやマズイ、今から増える」とか「大体大丈夫だ」とか。それによつて家の廊下の扉を開けて水が通りやすいようにして、浸水した水が通つて反対側に、玄関に出ていくように対策をする。

それと今度は家の中にある応接台と椅子を置いて、その上に畳を乗せて、建具を外して障子を外して、そして電話機を上置いて、カモに置いて、そういう準備をして畳全部を上げてしまふんです。大体の〈水の上がるまでの〉時間がわかるから、準備しとくんです。そうすると大体勘は当たるから、だんだん浸かりはじめる。廊下に水が川端から入ってくる。水が通りやすいようにして玄関の方も全部開けて、「どうぞお通りください」ですよ。そういう準備

建物も、床がちよつと高めに造つてあつて。階段も、私の家は不思議で、二段ぐらいあがると三段ぐらいを広いのにしてあるの。お二階に荷物を上げたりするときに中継というか、ここにおとして、すると子どもも運べるので、そういう造りがありました。(Bさん)

他にも、水が上がる前から観察し、対策を行うと同時に、水が引くときの対応にもコツがあつたという。

水がだんだんびしゃびしゃ来始めたときには、それを見守りながら何を準備したかつちゅうと、バケツと普通の草箒。あれを集めて壁のところで水が引き始めるのを待つて濁り水のときに掃除をやるんです。各部屋で畳を上げてあるから、畳下の板を2枚ぐらいはがして、床下に来ている泥水を汲んで、壁の下の方からごみを流しながら箒ではわいて。水が引くのと一緒に、箒で廊下をずーっと。水が引つ込んだら床下の水を汲んで、水で流してきれいに掃除をした。それが自然河川の、水害時の準備と後始末の、後

伏流水

連載その④

湧き出した伏流水は、やがて清流球磨川となり八代平野を潤して不知火海へと注ぐ。我々もそれにあやかり世の伏流水とならんと願いつつ、このボタンをつないでいきたい。

洪水と鯉と台湾ドジョウ 日本人の誇るべきDNA

牛嶋将克

今年も暑い夏がやって来た。

今では球磨川で泳ぐ子供達の姿を見る事は出来ないが、私が小学生の頃までは河童^{かわこ}のように球磨川で泳いでいたものだ。人吉市内を流れる当時の球磨川は水量も多く、川辺川に負けず劣らずきれいな川であった。その母なる川、球磨川も牙をむくときがある。

昭和40年7月3日未明、激しい雨音を聞き消すように消防団のおじさんたちが我が家にどこかとやって来

「同一地域で度重なる適正な規模の災害は、被災社会に集合的防災上の意匠ともいえるべき（中略）、庶民の日常生活のなかには災害に対する生活の知恵の結晶として生き」る「災害文化」を生む（広瀬1984・119-122）。災害研究者の広瀬弘忠は、そう指摘した。ここまで示してきたような、川の様子を観察し、経験に照らし合わせ、準備をして後始末まで行う一連の対応こそが、球磨川流域の災害文化なのだろう。

【もり・さやか。大学教員、高知市】

参考文献

- ・広瀬弘忠1984、『生存のための災害学―自然・人間・文明―』新曜社
- ・熊本日日新聞編集局2001、『山が笑う村が沈む―ダムに揺れる五木の人々―』葦書房
- ・熊本日日新聞取材班2010、『脱ダム』のゆくえ―川辺川ダムは問う―角川学芸出版
- ・野本寛一2013、『自然災害と民俗』森話社
- ・篠原徹2005、『自然を生きる技術―暮らしの民俗自然誌―』吉川弘文館

かつて下流域の郡部でも、Dさんと似た状況を「年に一度の大掃除」とする語りに、何度か触れたことがある。Dさんの後半の語りは、先に示したCさんの「却って、みんなが訓練。」と重なって聞こえる。「子ども時分は良かったけど、商売には困った」と語る方もいたが、私がお話を聞いた方々の大半が、CさんやDさんと同様に語っていた。



た。小学校に入ったばかりの私と3つ上の兄は眠たい目をこすりながら起こされた記憶がある。

「すぐそこまで水の来とつで、早よ避難せんば」

大人たちの会話から聞こえてきた言葉で覚えているのはそのワンフレーズだけ。

私と兄は消防団のおじさんに背負われて3軒上手の堀内下駄屋さんの2階に避難した。家を出ると、すでに大人の膝位まで水が来ていた。消防団のおじさんの背中がとても頼もしく感じたのを今でも覚えている。

田舎では有事の時に頼りになるのは今も昔も消防団のおじさんである。近所の子供が何人かそこへ避難してきていたが、我々子供たちに事の重大さなどわかるはずもなく、一晚中興奮

して眠れずに遊んでいた記憶がある。避難して1時間もしないうちに我が家は軒先までどつぷり水に浸かっていたそうだ。まさに危機一髪であった。もちろん当時の私にその自覚はなかった。

父も当時は41歳、バリバリの消防団員であった。では自分の家を放つぽつてどこに行っていたかという、母の実家にいたのだ。母の実家は同じ下青井町の新地というところで球磨川沿いにあった。球磨川の水が氾濫するときは当然、どこよりも先に水が来るのである。

父は、いの一番に母の実家へ飛んで行き荷物を屋根裏部屋へ上げていたのである。しかし間もなく水位が軒を超え、運び損ねた荷物が流されていくのを屋根裏部屋で固唾をのんでじっ

と見守っていたそうだ。そんな中、叔母の史江ねえちゃんが父に向かって叫んだ。

「猛ちゃん、給料袋ば神棚に上げたままやった〜」

父は急いで取りに戻ろうとしたが時すでに遅し。神棚に上げていた史江ねえちゃんの給料袋はふかふかと水に浮き、そのまま濁流の中へ流されていったのだ。その場にいたみんながなすすべも無く、ただ恨めしそうに見ていたそうだ。

飛び込んで取りに行けばよかったのに、というのは素人考えである。濁った濁流の怖さは想像を絶する。泳ぎが上手下手の問題ではなく、濁流に入る＝「死」である。数時間後にはドザエモンである。飛び込まなかった父の判断は正しかった。

もらったばかりの給料袋を濁流にさらわれた史江ねえちゃんはさぞ悲しかったに違いない。

しかしながら、この給料袋流失事件は親戚が集まるたびに焼酎の肴にされ、いまでは笑い話となつて語り継がれている。貧しいながらも逞しい一族なのである。

さて、翌日から水位は徐々に下がりはじめ、どの家も濁流（泥水）が去つた後の掃除が始まった。当時は下水道などは整備されておらず、どこの家も汲み取り式の便所だったので濁流と一緒にかなりの異臭を放っていた。

大人たちが後片付けで大変な時に、私ら子供は学校が休みになり、ルンルンな気分だった記憶がある。とても



屋根の上って濁流から逃れる人々（昭和40年）

不謹慎な子供であつたに違いない。その時、炊き出しと配給で配られたおにぎりと菓子パン（ピンクのウエハスとパン生地間にバタークリームを挟んだやつ）がとても美味しかったのを覚えてる。

また洪水が起きたら菓子パンが食べれるかなあと、子供心にでも思つたのはきつと私だけだっただろうなあ……。まったくもつて不謹慎なガキンチョである。

川の水が引くとそこらの田んぼには逃げそこなつた色んなものがいた。程なく大人たちがつかい鯉と台湾ドジョウ（雷魚）を大きなシヨウウケに捕まえてきた。鯉も台湾ドジョウも1メートル程もあり、我が家の水槽に入れて一か月ほど生かしていた。

当時、我が家は和紙の原料である楮（こうぞ）を加工する仕事をしていたのだが、その楮を水に浸けておくためのでっかい水槽があつたのだ。

ある日、台湾ドジョウを梶から棒で突つくと、なんとその棒を鋭い歯でぐりと噛み砕いてしまった。すごい……。

「ぎゃんすこかドジョウのおつけん見に来んや〜」

次の日から近所の友達を連れてきては台湾ドジョウに棒をかみ砕かせるシヨウを見せ、「ほら見てん、ぎゃんすこかろ〜」と意味不明の自慢をしていた記憶がある。

ある日、鯉は洗い（刺身）と鯉コク（味噌汁）になり、台湾ドジョウは蒲焼きとなつて大人たちの焼酎の肴になり成仏した。

この時の洪水の被害は球磨人吉から八代まで及ぶ相当なもので死者2人、流失及び全壊家屋41戸、半壊1240戸、床上浸水2751戸であつた。

そんな悲惨な状況でも、愚痴を言つたり、人の邪魔をしたりする後ろ向

きの人はほとんどいなかった。みんなが、前を向いて協力していた時代であつた。

あの頃はみんなが貧乏であつたが生きる事に遅しかった時代でもあつたのだ。

先の熊本地震でも想像を絶する甚大な被害が出た。しかしみんなが協力し合い、歯を食いしばり、一日も早い復興を願ひ、みんなが前を向いて頑張っている。そんな姿を見ると感動し涙が出る。非力であっても、誰もが自分も頑張らねばと思うのだ。

日本人の誇るべきDNAはここにこそある、と私は思う。

【うしじま・まさかつ。会社員、人吉市】

くまがわ春秋歌壇

いもこ短歌会

蕎麦はれ駆け込む医院頼りきり衛生士の声温かく聞く
熊本が続く余震は遠くてもコトリと動けば鳥肌のたつ

三原 竹二

清流のせせらぎ聞こゆ散歩道さぎは動かず水面をみつめ
山里の若葉したたる坂の道おじやめの友が集いて待てり

坂本 ケイ

「満州」に生まれ育ちしと語り合う苦境は同じ宝田明と
八人めの孫中学にはいるまで海馬ようどうか縮まずにいて

上田 廸子

ベランダに頭寄せあい学童ら蛙手に手に賑やかなりき
泥田には頼りなき苗並びいし手植えの昔苗の太さよ

宮川しのぶ

認知症に短歌が効くと妻が言うその気になって言の葉紡ぐ
れんげ草幼きころに吸った蜜いまの子らには見向きもされず

胸川きよし

原爆は降って来たるやオバマさんあなたの国が落とせしものぞ
震源域拡がりゆくに身の震う原発廃炉に猶予はならじ

上田 精一



KUMAGAWA is my treasure.

迫田重光

いつの頃だろうか？ 川遊びを始めたのは？

小学生の頃から夏休みは川で遊ぶか、山で遊ぶかだけを何年も送っていた。

川で魚をとって焼いて食べたり、山でクワガタ、カブトムシを採取したりの少年時代。ただ言える事は、その中で色々な川の事、山の事を学んだと思う。今振り返ると、その時の掟上下関係、リスク管理等が現在の根底にあるのは間違いない。

球磨川で最初にラフティングをス

タートさせてから今年で23年を迎えた。最初にやった宿命だが、数々の困難が数えきれないくらいあった。ただその分沢山の免疫も付いた。今では数多くの会社がここ人吉球磨でラフティングの会社を興し、営業活動している。

現在22社ぐらいあるラフティングの会社は多すぎる気もするが、球磨川でラフティングツアーに参加するお客様は修学旅行を入れて年間約4万人が来ているのも事実である。

熊本県の蒲島知事も『熊本にはラフティングがある』とまで言われてお

り、一つの産業にまで、この地で育ててもらった事によるものも大きいはず。そして忘れていけないのは球磨川と言う、川がここにあったからだ。この年間4万人とも言われるラフティング観光産業も母なる川『球磨川』があつたからこそである。





敷地内の地面には亀裂が...

特集 熊本地震

八代市役所・本庁舎の罹災

八代市の被害は意外に知られていない。死者1名、重軽傷者25名、全壊家屋10棟、大規模半壊10棟、半壊127棟、一部損壊1036棟、避難所開設84箇所（最大時）、同所への避難者約15000人、車中泊者数は避難者数はその数倍、農林水産業の被害は約9億8千万円、八代城石垣の一部の崩壊、などなど。

棟、一部損壊1036

棟、避難所開設84箇所

（最大時）、同所への避難

難者約15000人、車中泊者数は避難者数はその数倍、農林水産業の被害は約9億8千万円、八代城石垣の一部の崩壊、などなど。

ここでは市役所本庁の罹災状況を写真で紹介する。八

代市役所は本震翌日の4月17日夜、倒壊の危険があると

して本庁閉鎖と本庁機能を鏡支所などに

分散させることを決定し、翌18日に閉鎖・

移転作業を実施した。当日は、最低限の

資料を搬出し、そのほかの資料など（私

物も含めて）は結果的に「放置」した。

閉鎖・移転作業に専念しても1日では

業務関係資料等を搬出できなかった。し

かし、それでは業務に支障が発生するこ

とから、その後も、ヘルメットなどを着

ただ最近では、若干お客様が落ちて着いて来た感があるが、おそらく徐々に回復してくることだろう。国内のスキー場もそうだが、修学旅行が増えてくると一般のお客様が減ってくる。おそらくそれと同じ状況がラフティングにも出てくるはずだ。

この地が僕は大好きだ。だからこを日本一にしたい。私が最初に携わった五木村のバンジーは、スタート



した時点では日本一のバンジージャンプだったが、埼玉県の龍神大橋にて100mのバンジージャンプがスタートしたことにより今は日本で二番目である。このままで行くと体験型アクティビティは下がってくるかもしれない。

この夏『日本初そして日本一』の体験型アクティビティを球磨川でスタートさせてもらいたいと熱望している。熊本県、人吉市、球磨村が日本一になる日が目の前に来ている。

構想20年、実働3年の大切に温めて来たアクティビティをこの夏リリースします。沢山のお客様に最高の球磨川での感動を伝えたい。御協力お願いします。 Coming soon.

【さこだ・しげみつ。(有)ランドアース代表、球磨村渡】

用のうえ、資料・物品の搬出作業はつづけられた。掲載した写真は5月5日に撮影したもので、4月18日時点より「引越し作業」は進んでいるのだが、それでも緊急に移転作業が実施されたことがわかる。八代市役所によれば、現在でも、移転作業は継続中である。



庁舎の内部。壁の一部が崩落している



放置されたままの書類①



天井付近の亀裂

★本庁舎閉鎖
にともない、八代市は新庁舎建設の検討に入り、本庁機能を1箇所に集約する「集中型」と支所を活用する「分散型」の2案を発表し、両案についてのパブリック・コメント（意見）を市民に求めた。新庁舎建設は八代市の将来像にかかわる重要問題である。したがってパブコメの実施は適切であったが、多くの市民はこれを知らなかったようである。パブコメは、7月4日に終了した。

（編集部）



同②

マサカはいきなりやってくる

緒方雅子

4月14日の昼。最高のラッキーな時間をたのしみ、ルン気分でした。自宅の庭に水をかけていたら近くの保育園児が園外保育中で通りかかり、余りのかわいさに、「みんな！ お隣のお寺に珍しい物があるよ。見て行かんね。」と、近くの安楽院に連れていきました。昔ながらの手押しポンプを実演しました、まあ子どもたちは大はしゃぎ。「ボクも私も」になりました。

「みんな停電でお家の水が出なくなったら、このポンプの場所をパパやママに教えてあげてね。今日は楽しい一日をどうもありがとう」そういつて、子供たちと別れました。まさか、それが現実になるとは。

「前震」が入浴中に起こりました。水が頭の上まではね上がり溺れるかも、死ぬのかな、そうすれば昨年急死した

長男に会えるかも、といった言葉が頭をよぎりました。その直後、

「母さん大丈夫か。地震だぞ。大きいよ早く逃げよう」と次男が私を引きずりだしました。

すぐに身内に電話するもつながらず、パニック状態。食器は割れて散乱、落下した本で廊下を埋めました。そこをどうにか、かき分けながら貴重品、さしよりの食品、書類、寝具などをみつけたし、それらを急いで車に積み込み、近くの小学校の体育館へ避難しました。しかし、体育館の床に穴。中学校や市の体育館へ回るもそこは満員。結局、余震のたびに車を停車させつつ、数時間かけてわが家へ逆もどりしていました。そして駐車場で一晩すごしました。そうこうするうちトイレやおにぎり作りをする以外は車内ですごす日々がはじまりました。

それは本震の前触れでした。その後に本震発生。熊本市内に住む姉や姪たちはタクシーなどで福岡市内にむかい、さらに新幹線で東京の妹の所に「疎開」。

そうこうするうちに八代にすごい地震がくるとの噂が飛

坂本地域の地震を 考える

つる 詳子

八代を震源とする4月19日の震度5強の地震と震度5弱の2回の地震の後に、小さな余震はあったものの八代地方においてはそう大きな揺れはなく、このまま収束するかと思われた6月12日、八代を震源とする震度5弱の地震が再

身内、知人に負傷者が出なかったことに感謝しています。南阿蘇村の阿蘇大橋付近では行方不明になった男性の発見を涙ながらに待ちわびておられる親御さんがいます。お二人のことを想うと、昨年、急死した長男の骨を毎日抱ける私はなんと幸福だろうと思います。「当たり前毎日」「普通に過ごせる日々」、これこそが幸福なんだとつくづく感じます。

姉のもとにまいりますと、益城のグランメッセの様子が見

土いじりをして、ムカデやモグラ、ヘビなど、元来地中にいるはずなのに、それらが地表に出てきて死んでいるのに気づきました。地震の影響はこんなところにも表れるのですね。

なんで、熊本県で地震なんだ、四百年前にあったのは知っていたのに、どうして？

何の対策もしてこなかったことを反省しました。球磨川の洪水では何度も被害を受けサバイバルを経験しているはずなのに。自分の不甲斐なさを改めて知りました。昔からの教え「マサカはいきなりやってくる」を実感しました。

いつもペットボトルに水を入れ、10本以上上トイレに並べたりして、この数ヶ月をなんとか乗り越えました。夫の実家は城南町にあります。全壊しました。「危険 立ち入り禁止」の赤紙が貼られました。空き家同然だったため「罹災証明書」は発行されませんでした。やむなく放置しました。せめて墓地はと思い、それだけは手当てできました。そしてなにより、

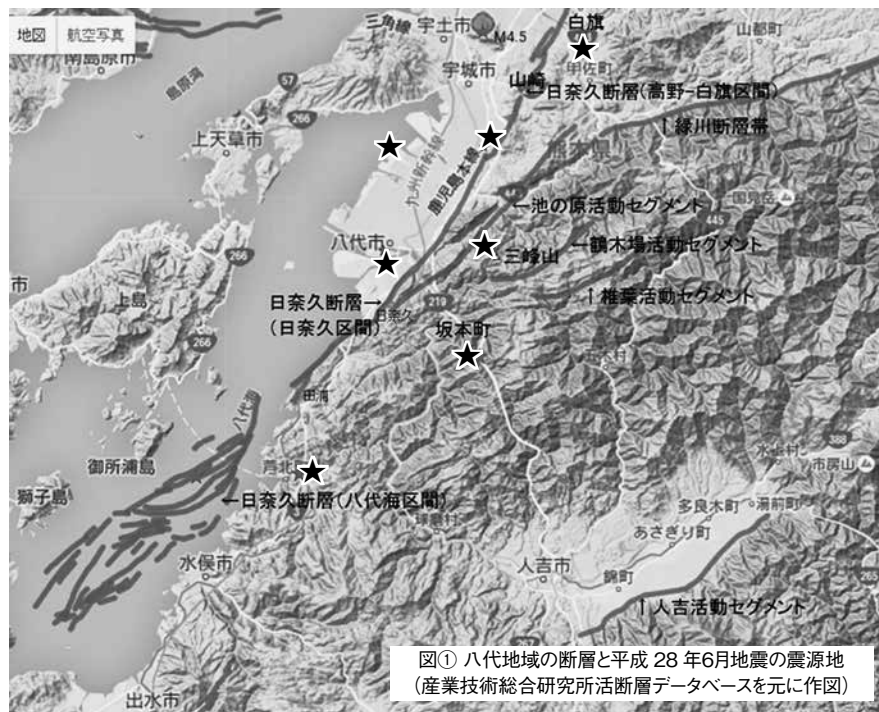


庭先に作った避難小屋（上）
夫の実家に貼られていた赤紙（下）



えます。駐車場にはまだ車中泊の人が大勢おられる。本震で生き残った生命を二次災害でなくすことなく、どうか生きながらえてほしいと願います。
一日も早く復興ができるようにと、太陽に向かって咲くヒマワリを裏庭に植えました。いま、百本近く咲いています。先日は、例の園児たちが来てくれました。おせつかいの元保母さん（私のことです）は、ヒマワリの大きな花を見せるためにがんばりますよ。【おがたまさこ。八代市】

び起こった。この震度5弱の時の揺れは、それまでと違うと感じた。下からドンと突き上げるような揺れがあったものの八代市街地は殆ど震度3。一方坂本付近が激しく揺れ、震度5弱と、震源地から同じぐらいの距離しか離れていないのに、大きな違いがあった。この時の震源地は、三峰山であった。今までの日奈久断層帯を震源とする一連の地震は、ほとんど断層より西側の旧八代市の揺れがひどく、坂本付近は旧八代市より震度階級は2程小さいのが常であったからだ。



図① 八代地域の断層と平成28年6月地震の震源地
(産業技術総合研究所活断層データベースを元に作図)

この時の地震について、熊日新聞（6月16日付）は「気象庁は、この地震の震源地は日奈久断層帯の近くで、これまでの余震域とも一致するとして『余震域に特段の変化は見られない』と報じている。一方、気象庁の発表は『震源の深さは7キロと浅く、断層の上側のし上げる『逆断層型』である。なんか、同じことを言っているのかどうか分からない報道だ。

さてよ、日奈久断層は右ずれの正断層であつたはずだと疑問が湧いた。そもそも、九州には正断層ばかりで逆断層はないという話ではなかったか。そもそも、三峰山を通る断層があつたか。だけど、地震とは断層のズレが起こすものであるならば、震源地近くを通る断面は、みんな活断層と言えるのではないかと……次から次に疑問が湧きあがる。

地震には、火山性の地震以外には、大きく分けて、「海溝型地震」と「断層型地震」があるとされる。前者はプレートが陸地に沈み込むことによって起きるもので、九州の場合には、フィリピン海プレートがユーラシアプレートの下に沈み込む、いわゆる南海トラフと言われるプレート境界で起こる地震の影響を受けており、フィリピン海プレートは毎

年3〜4m西に移動し、およそ100年に一度程の割合で、ひずみの解消、すなわち巨大地震が起る。一方後者の「断層型地震」は、内陸で起る直下型の地震であり、これは断層のズレで起こるとされ、その断層の長さに比例して地震の規模も大きくなるとされる。

地震とは断層面のズレによって起きる。そう説明している報告書や資料が殆どである。そこで、もう一度八代付近に走る断層と6月に起こった震源地を確認してみた（図①参照）。

星印は、6月中に熊本県内で起きた一連の地震のうち、日奈久断層帯に起因すると報道されている震源地である。星印の震源地では、そこを震源とする余震も何度か起っている。

地震が断層のズレとするならば、この星印付近を通る断層がなくてはならない。断層とはスパッときれたような二つの面ではなく、いくつもの亀裂が並んで走っており、断層面も垂直ではなく、傾いているのが常であるので、近くの震源地が日奈久断層に含まれているということは理解できる。しかし、三峰山を震源地とした地震に限って言えば、他の

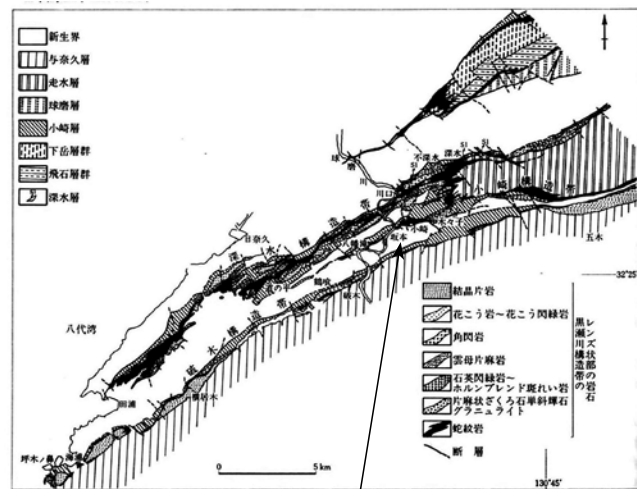
日奈久断層帯を震源とする地震とは違って、日奈久断層の西側より、東側の震度が常により大きいのが気になった。それで、二つの断層をもう少し調べてみると、日奈久断層の右にある池の原断層セグメントは、日奈久起震断層であり、美里町付近から竜峰山の東側を通り、段で球磨川を横切り、八竜山の西側を抜けて、八代市の敷河内付近まで走っている。

一方、三峰山の東側にある鶴木場断層セグメントとその東側の椎葉活動セグメントは六本杉山起震断層であり、やはり右ズレ断層である。今回の震源地である三峰山がどちらの断層帯の影響を強く受けるかは分からないが、どうも坂本地区はこの鶴木場断層セグメントと椎葉断層セグメントの動きに強く影響されているように思う。今回の一連の日奈久断層を震源とする地震が六本杉山断層帯にも影響を与えたと考えるのが自然のように思う。

六本杉山断層ってどこだ？と調べてみるが、その正体は分からなかった。しかし、12日の地震について、気象庁が逆断層型と発表していることから、坂本は日奈

久断層よりも他の断層の影響を強く受けている地区なのかも知れない。

また、同じ6月17日に坂本町の油谷ダム南を震源とする地震も起こっている。そこで岩盤のズレがあったということである。日奈久断層は地表面にその断層面が表れていると



図② 球磨川下流地域の黒瀬川構造帯（「日本の地質9 九州地方」より引用）

ころは殆どないと言われているが、まだ調査が進んでいない、もしくは発表されていないために住民が知らない断層が坂本や芦北、球

磨地域には多く存在しているのは間違いない。

更に遡って調べてみると、4月29日4時25分に発生した地震は、荒瀬ダム近くの渋利川上流を震源とするM3・4、深さわずか4・6kmと浅い所で起きた地震であった。坂本の住民はこの時の激しい揺れを報告しているが、一山隔てた私がある高田地区は大した揺れを感じていない。八代市街地と坂本の地震の揺れの違いが気になった。

そもそも、断層が存在することで直下型地震が起き、それは断層ごとに周期があり、一度起きたところではまた必ず起きると言われ、それにより地震の予測もされてきた。しかし、実際は断層が知られてないところで多くの地震が起こっている。最近話題になったのが、2000年の鳥取西部地震である。地震は地殻の岩盤が急激にずれるという現象であり、そのずれた結果が断層であると、地震予知研究センターの梅田康弘氏は指摘する。また、同氏はこの時の地震はその前にも小さな地震が何度か起きていることを取り上げ、群発地震が多い所では、岩盤に蓄えられるストレスを小出しに解消しているので、大きな地震は起こらないというのも間違いであると、指摘している。

つまり、地震は断層のあるなしに関わらず、どこでいつ大きな地震が起きるか分からないというのが正しい。

また、坂本は遥拝堰付近で日奈久断層が斜めに横切り、その少し下流で臼杵―八代構造線が横切り、それと並行して球泉洞付近を横切る仏像構造線に挟まれた地域であり、南にあった海洋プレートが海溝に沈み込むのに伴って、陸側にいろいろな堆積物が押し付けられてきたもので、この二つの構造線に挟まれた部分は秩父帯と呼ばれる。

しかし、坂本の場合は秩父帯とひとくくりにできるほど単純ではない。この二つの構造線の中に、北部には黒瀬川構造帯、南部には三宝山帯があり、境になっているのが破木構造線という断層である。他にも深水構造帯など、多くの断層が連続していると言われている。更に黒瀬川構造帯はもつと複雑で、年代の違う地層が複雑に重なり断層も多い。荒瀬ダム付近では三畳系の地層が小崎層と断層で接している（図②参照）。

実際、荒瀬ダム建設当時を知る地元住民は、「工事中に荒瀬ダム付近の球磨川を横断する断層を事業者は見つけたが、工事に影響を与えるので内密にした」と証言している。

図②を見るだけでも、坂本地区が如何に複雑で断層が多い地域であるかを知ることができるが、球磨川沿いに見られた地層・断層の殆どが、コンクリートで覆われたために、見ることができなくなっている。

今回の熊本地震は、中央構造線、また大分―熊本構造線との関係が大きく報じられた。構造線とは、地層群の境界を意味し、しばしば多くの断層を伴っている。臼杵―八代構造線、仏像構造線も同様である。しかし、地震とは無関係であるかのように取り上げられない。

また、最近の地震発生の確率においても、南海トラフでM8～M9クラスの地震が起きる確率は80%で、布田川―日奈久断層のM7・0クラスの地震が起きる確率はほぼ0・06%という報道が多かった。南海トラフ地震の方が早く起きると誰もが思ったに違いない。これには理由があると、東大のロバート・ゲラー教授は指摘する。地震発生確率に関する発表は、国民を守るためではなく、予算をどこに配るかのための指標になっていると。専門家も本当は、熊本を含め日本中どこで起こっても仕方がないと分かっているが、全国に地震対策の予算をつけるわけにもいかないのです。

特定の場所の地震を理屈がつくように言わせられているというのである。坂本の山の中に多くの予算が投じられるとは考えにくい。

地震予知で報じられる活断層以外にも、日本国中至るところに断層だらけと思つて間違いない。その中でも、臼杵―八代構造線と仏像構造線に挟まれた秩父帯は、南東からフィリピン海プレートの力が加わり、北西からはユーラシアプレートに押され、ひずみがたまりやすい場所でもあると考えるべきである。また、日奈久断層で繰り返し返される地震で右ズレと多少の右隆起を何度も起こしているということは、六本杉山断層に属する鶴木場活動セグメントとの間のひずみも溜まつていくということである。眠る多くの断層が、いつ活断層となつて大きくずれるか分からない。坂本地区はそういうところに位置している。

最近また、小川から八代・坂本、芦北付近にかけて小さな地震が頻繁に起こっている。大きな地震の前触れか、小出しにエネルギーを放出しているのか、そういうことは関係なく、いつ大きな地震が起こってもいいと、各自が対策を講じるしかないのだと思う。

震災復興と オリンピック

黒木 紀

東日本大震災から5年の歳月が過ぎ去つた。この間、専門家の間からは「東日本大震災を機に日本は地震の活動期に入った」「いつ、どこで大きな地震が発生しても不思議ではない」などと警告の声が上がっていたが、4月14日からの熊本地震はこれらの警告通り、突然発生し、大災害をもたらした。5月17日には、熊本地震の復旧に充てる総額7780億円の補正予算が参院本会議で可決成立したが、内閣府は23日、熊本地震による住宅や道路などへの直接的な被害額が県内で3兆8千億円、大分県を含めると最大4兆6千億円に上るといふ試算をまとめた。県内では、6月20日の夜から21日未明にかけ、1時間雨量の最大値を4地点で更新する記録的な大雨が襲い、各地で土砂崩れが相

素人による検証であるが、今後の地震対策の参考にしたいだければ幸いである。

【つる・しょうこ。環境カウンセラー、八代市】

※参考資料

- ・日本の地質9 九州地方…日本の地質「九州地方」編集委員会編1992年
- ・熊本地学巡検ハンドブック…熊本県高等学校地学教育研究会1970年
- ・活断層…松田時彦編 岩波新書1995年
- ・西日本大震災に備えよ…鎌田浩毅 PHP新書2015年
- ・日本における活断層調査研究の現状と展望…岡田篤正 活断層研究28号7―13 2008年
- ・「平成28年（2016年）熊本地震」について（第40報）…気象庁 平成28年6月13日

※語句の説明

- ・断層セグメント…活断層を過去の活動時期や平均活動間隔に基づいて区分した断層区間のこと。固有地震を繰り返す活断層の最小単元
- ・起震断層…まとまつて一つの地震を発生する可能性が高い断層のグループ

次ぎ、熊本市など4市町で6人が死亡するなど、被害額はさらに膨らんだ。

1月20日に第1刷が発行された地震予知連副会長山岡耕春著「南海トラフ地震」には、「この地震の場合、日本の総人口の8割以上が住む首都圏から九州までの広い範囲で大災害を引き起こす。強い揺れや大きな津波による被害は、日本経済に回復不能な影響を及ぼす恐れもある。南海トラフ地震は必ず起こる。日本列島に住み、生きていく限りは避けられない、いわば『宿命の巨大地震』である」と説かれている。

また、2月19日に第1刷が発行された政府の地震調査委員会現委員長平田直著「首都直下地震」には、「注意しなければならぬのは、『30年以内、70%』という数字は30年後に大地震が発生する確率ではないことである。地震が起きるのは今日かもしれないし、明日かもしれない。あるいは10年後かもしれない。この30年以内のどこかで発生する確率が70%であるということだ、」と説かれている。

6月20日付け「熊日新聞」の「射程」欄は、「首都・東京は大丈夫？」と題して以下のような問題を指摘した。

「(略) 政府の中央防災会議の被害想定では、マグニチュード(M) 7.8の首都直下型地震が起きた場合の死者は最悪2万3千人、全壊、焼失する建物は61万棟、被害額は国家予算に匹敵する95兆3千億円に上る。電気やガス、水道などのライフラインは止まり、JRや私鉄、地下鉄、首都高速など交通インフラが寸断、日用品の流通も困難になる。避難者は最大700万人に達するとの想定もある。おにぎり1個渡すのに700万個も必要だ。そんな支援物資の供給など可能だろうか。(略) 東京など首都圏直下でM7級の地震が発生する確率は30年以内に70%とされる。だが、危機感は今も伝わっていない。2020年の東京五輪向け、都内のあちこちで再開発計画が進み、地方からの人口流入も続く。安倍政権が打ち出した政府機関の地方移転も掛け声倒れで、一極集中に拍車がかかるばかりだ。(略) 熊本地震の教訓をどう生かすか。東京にも突きつけられた課題だろう。(略)」

この指摘どおり、諸課題は放置され、国民の関心は専ら4年後の東京オリンピックへ誘導されているといつても過言ではない。アメリカのスミス大学経済学教授アンドリュー・ジ

ンバリスト著『2020年東京五輪で日本が失うもの』は、オリンピックの開催は経済発展を後押しするという毎年繰り返される主張には、実証的な裏付けはほとんどなく、大会の最大の遺産といえば、建設に何十億ドルもかかり、年間の維持費に数百万ドルもかかる使用用途のなくなったスタジアムであり、返済に10年から30年にかかる巨額の負債だと断じている。

国の機関が首都直下型地震と南海トラフの巨大地震が30年間で70%を超える確率で発生すると予測しているのに、その予測の期間内に東京でオリンピック・パラリンピックを開催するのは、あまりにも無責任過ぎはしないか。万一開催中にこれらの巨大地震や津波が発生した場合、道義的責任が世界中から追及され、莫大な補償を余儀なくされるだろう。今、我が国の借金は1049兆円で、国民1人当たり826万円もの借金を抱える一方、税金で手当てすべき課題は山積している。地球温暖化によってスーパー台風や巨大竜巻の多発も危惧されている。4年後の東京オリンピック・パラリンピックは返上し、国民の命と暮らしを守るための施策に全力を傾注すべきではないか。【くろき・おさむ。人吉市】

オキノの視点③

地震と精神科医 (断章)

興野 康也

熊本地震では精神科病院も被害を受け、患者さんたちが他県の病院に移送されたケースもありました。高速道路の不通で通院ができず、最寄りの病院に受診される患者さんも多かったようです。僕の働く吉田病院にも避難してきた患者、通院できない患者さんがたくさんいました。

災害支援のために派遣される精神科チームをDPAT(ディパット、災害派遣精神医療チーム [Disaster Psychiatric Assistance Team]の略語)といいます。精神科の医師と看護師

とソーシャルワーカーが単位になってチームを作り、必要に応じて他職種も参加する形です。僕は熊本地震の支援は何もできていませんでしたから、DPAT派遣の依頼が吉田病院にきたときには、参加を希望しました。同僚たちも10人以上名乗りをあげました。でも具体的な派遣の日程などは決まらなかった。

そんなある日、「熊本DPAT研修会」の案内が病院にきました。案内の翌週に熊本県庁で開催という急な話でしたが、僕はぜひ行きたかったの

で希望しました。病院の同僚8人とつしよに2台の車で熊本市に向かうことになりました。僕にとっては震災後初めての熊本行きです。

行きの高速道路で驚いたことは、高速道路の路面が平らでなくなっていたことです。波の上をボートで進むとき、ボンボンとジャンプする感じになります。それに似た感じでワゴン車が何度も跳ねます。震災後の早い時期に被災地を回った同僚の話では、以前はもつとひどかったそうです。高速道路の上を渡してある橋も崩れ落ちたそうで、橋の付け根の跡だけが見えました。

「時間に余裕があるので、被災地を回って行こう」と同僚の提案で、一番被害が大きかった益城町方面に向かいました。はじめは屋根にブルー

シートのかかった家々が見えていました。やがて歩道が破壊されていたり、電柱が歪んだりしているのが見えてきました。そしてあるときから完全につぶれた家々が見え始めました。

その一角は他とは全く景色が違っていました。僕のなかにある今までに見てきた風景のどれとも違いました。僕たちが小さな紙の箱を簡単に踏みつぶすように、巨大な力がやすやすとつぶしたことがわかりました。ジワジワとゆすつてつぶしたという感じではなく、ボカッと一撃でやった感じ değildir。人間の想像できる範囲でない異常な力が発生したのでしょう。ある意味では壮大な光景でもあるような、日常性とか離れた現場です。同僚たちも僕と同じようにあつけない取られて、ただ窓の外に見入っていました。

県庁に着いてみると、たくさんの方が来ていました。DPATに名乗りをあげたのは5つの病院なので、せいぜい数十人くらいだろうと思っていたんですが、200人はいそうです。運営している人には見知った保健師さんたちもいました。県の職員さんたちは、不眠不休に近い感じで働いてきたのです。

講義が始まりました。DPATの活動についての概論のような感じでした。ポイントを僕なりにまとめてみます。

①全国から多数のDPATチームが来てくれている。震災直後には最大で25くらいのチームが同時に活動していた。

②相談のケースは減ってきており、

徐々に終息のプロセスに入ってきている。

③全国のDPATチーム↓九州のDPATチーム↓地域の保健センターや医療機関、という形で被災者支援を引き継いでいく予定である。

④DPATチームは熊本県の精神保健福祉センターが取りまとめる形で動いている。

⑤現在では各地域の保健師のバックアップのような形で動くことが多い。

⑥災害時には保健師など公的部門のスタッフの存在が重要である。

⑦したがって、精神保健福祉の公的な活動が普段から充実していないと、効果的な災害支援はできない。

⑧それぞれのチームの活動をどのよう

に集約して把握・分析するかが鍵である。

⑨そのためにDMHISS（ディミス、災害精神保健医療情報支援システム [Disaster Mental Health Information Support System] の略語）という情報共有システムを使う。それぞれのチームは相談に乗ったり診療した案件の概略をDMHISSに記録する。

⑩DPATチームはDMATチーム（ディーマット、災害支援医療チーム [Disaster Medical Assistance Team] の略語）と並行して活動する。

⑪DMATとの最大の違いは、DPATの方が活動期間が長いこと。

⑫災害時には被災状況をいち早く把握する必要がある。精神科病院間の情報共有システムの整備が大事。

研修を受けたおかげで、DPAT

の活動のイメージがわかりました。いまは比較的落ち着いてきていて、思っていたよりも案件も少ないようです。

保健センターを回って保健師さんたちからあがってきたケースの支援をするというのは、僕が常日頃やっていることです。自分の活動と災害支援との間に共通点があるなんて思いもしませんでした。ポイントは公的な支援システムの強化です。災害を機に公的支援システムのあり方が見直され、より機能的になってほしいと思います。それが犠牲者の方たちへの追悼にもなるのではないのでしょうか。

【おきの・やすなり。精神科医、人吉市】



父が送ってくれた資料「都市圏活断層図～人吉盆地南縁断層とその周辺『人吉盆地』解説書」（千田昇著、国土地理院、2015年）から。この資料によれば、人吉盆地には3つの活断層があるとされている。

①「人吉盆地南縁断層」（湯前町から人吉市まで続き、長さ約23kmと大きい）。②「新深田断層」（あさぎり町から相良村にわたって続いているが長さ約3kmと比較的小さい）。③「高原一朝ノ迫断層」（あさぎり町から錦町に続く。長さ約4.8kmと比較的小さい）。このように活断層の位置が示

てあると、もし地震が起こったときにどのあたりの被害が大きくなる可能性が高いかをある程度把握できる。

「明治熊本地震」と 関谷清景

木崎康弘

1 はじめに
水島貫之著『熊本明治震災日記』の「○八月六日晴
正午寒暖計九十一度強 旧七月十日」の中に、次のよう
な行があった。

「理科大学教授関谷清景氏本日東京出発の電報着せし由各新聞に記載せり同氏は地震学専門として取調へありし人にして嘗て昨明治二十一年七月十五日福島県耶麻郡磐梯山の噴火を調査せし有名の学者なり同教授小藤博士本県に来れるや直ちに電報を以て同氏の来臨を請ひ本県庁に於ても然るへき博士をして実査せしめられん事を請求ありしより出張の命を奉せりと云ふ」

本文中の「同教授小藤博士」とは、本誌第3号に所収した「明治熊本地震」と小藤文次郎で取り上げた、明

治熊本地震発生後、いち早く熊本入りした地質学者のこと。『熊本明治震災日記』には、小藤が来着早々に打電して、「理科大学教授関谷清景氏」の来熊を要請したことが書かれていた。熊本県庁からも、調査していただきたい旨の申し出があった、との記述もあった。

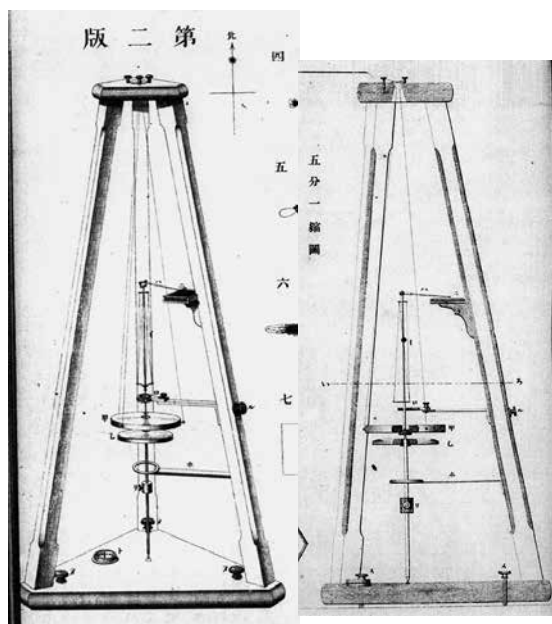
2 関谷清景と地震観測網の確立

関谷清景は、美濃国大垣藩（現、岐阜県大垣市）藩士の関谷玄助の長男として、1855年1月28日（安



関谷清景

政元年12月11日）に誕生した。1870（明治3）年に、藩からの推薦を受けて、大学南校（1872年に第一大学第一番中学、1874年に東京開成学校と改称）に進生の一人として入学。機械工学を専攻した。1876（明治9）年、東京開成学校を卒業して、さらに専門を深めるために、ロンドン大学へと留学するも、肺を患って、翌年に敢え無く帰国。2年ほどの療養期間を経て、



関谷式簡単地震計（関谷 1886）

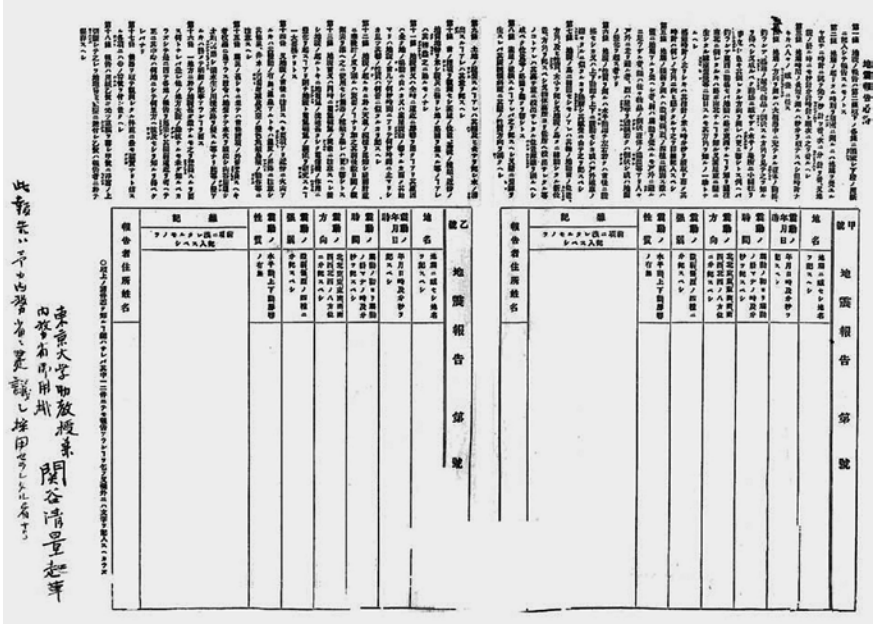
1880（明治13）年に東京大学理学部機械工学科雇用に。さらに翌年には助教となつて、その後助教に昇任し、機械工学教授のユイニングの



関谷式簡単地震計（左手前と右奥）
（大迫・野口 2006）

地震観測を手助けし、地震学の研究者としての歩みを始めたという（桑原2014）。その後、1886（明治19）年の帝国大学令の公布によって東京大学が帝国大学（後の東京帝国大学、現、東京大学）に改称されるや、その理科大学教授に就任。世界初の地震学教授の誕生で、画期的な人事となった（桑原2014）。

まず高く称揚された業績としては、「ユイニングやミルンに倣い、地震計を改良し地震学の創設に貢献した」ことだという（野口・中村他2007）。その改良された地震計とは、関谷式と呼ばれた「簡単地震計」（関谷



内務省に建議された「地震報告用紙」(野口・中村他 2007)

1886)で、「第1の振子を上から吊り、その扁平な重錘の中央部にうがつた穴に第2の振子(倒立振子)の頭部を納めた」構造(大迫・野口2006)。またその記録は、「中央よりやや上の支柱脇の台に置いた煤で燻した紙またはガラス板に針」(大迫・野口2006)の引っ掻き痕として残された。

さらに称揚されるのは、地震観測網の確立に果たした役割だった。1884(明治17)年、18条に亘る「地震報告心得」を付した地震報告用紙を考案。「東京大学助教 授兼内務省御用掛 関谷清景起草」として、「国家的事業としての全国地震調査事業を建議」(野口和子・中村操他2007)した。その結果は、「此報告ハ予カ内務省ニ建議シ採用セラレタル」だった。ここに、「地震があるごとに、全国の郡役所等から中央気象台へ報告する」(野口和子・中村操他2007)仕組みが成り立つこととなった。今日につながるシステムの始動となった、この建議もまた大きな業績だ。

3 磐梯山噴火と関谷清景

関谷が地震調査のために熊本の地に立ったのは、1889(明治22)年8月11日午後1時頃だったことが

『熊本明治震災日記』に記されていた。

「理科大学教授関谷清景氏は本日午后一時頃長崎より当地に到着下通町山本屋に投宿せられ病中ながら県庁へ照会し明日より実査の為め西山出張の準備ありたり」

文中に「病中」とあったが、これは、ロンドン大学留学中に患った肺病の再発だった。そのことの注記として、水島は、次のように添えていた。

「迂叟伝聞する処に拠るに同氏は肺病に罹り当時熱海へ療養の為め入浴中なりしも帝国大学の命を奉し自ら進んで当地震災調査の勞に当られし(後略)」

「肺病に罹り」とは、1888(明治21)年7月15日の磐梯山噴火の調査での、無理がたたつての再発のこと。その時の過酷な調査状況を今に伝えてくれるのが、「官報 第千五百七拾五号 明治二十一年九月二十七日 木曜日」掲載の「磐梯山破裂実況取調報告/理科大学教授関谷清景/同 助教授菊池 安」だった。冒頭の記事を抜き書きしよう。

「明治二十一年七月十五日午前七時四十五分岩代国磐梯山破裂ス乃チ帝国大学ヨリ右実況取調ノ命下リシカハ関谷清景ハ七月十八日二菊池安ハ同二十五日

二同所ニ出張シ爾来破裂ニ関スル諸現象ノ研究ニ從事セリ(中略)是ヨリ先キ清景安等予て磐梯山ニ留宿スルノ目的ヲ以テ食品ヲ用意シ七月三十一日ニ於テ登山シ破裂口ニ接シタル中ノ湯ニ到ルニ適々半破ノ茅屋一戸アルヲ見出セシカハ此ニ滞留セリ是諸種ノ研究ニ従事スルニハ山上ニ滞留スルノ便ニ若カサレハナリ既ニシテ八月八日ニ至リ諸調査全ク成功ニ付キ下山セリ(後略)」

関谷は、磐梯山噴火の三日後の18日に現地入り。そこで行ったことは、聞き取り調査だった。そのことが分かる記述があったので、幾つか拾い上げて、転記しておきたい。

「耶麻小学校校長宇田徹事ノ報道セシ所最モ確実ナスニ似タリ曰ク我所持ノ時計ハ其日即チ十四日鉄道停車場ノ時計(標準十時)ヲ見テ改正セリ之ニ拠レバ爆発ハ十五日ノ午前七時四十五分ニ在リト」

「破裂ノ模様ヲ信用ヲ措クヘキ山麓ノ人々ヨリ聞クニ

「破裂ノ際噴口ニ近キ中ノ湯ニ入浴中ナリシ越後国南蒲原郡井栗村来迎寺住職鶴巻浄賢ヨリ送来レル書状ハ當時ノ実況ヲ詳ニスルヲ得頗ル有益ノモノナ

レバ」

「磐梯山ノ南及北ニ住スル人々ノ共ニ言フ所ナリ」
「爆裂ノ鳴響ハ磐梯山ヲ中心トシテ凡ソ四方十二三里ノ地ニ達シタリ殊ニ同山ヨリ東北ノ風下ニテハ二十六里ヲ隔テタル海岸ニ於テ微ニ之ヲ聞クコトヲ得タリト尚ホ其他遠隔ノ地方ニ於テモ聞キシト言フ者アリ」

「破裂ノ際蒸気烟ノ内ニ白キ星ノ如キモノ幾個トモナク相続テ昇リ又降ルヲ見シト云フ人甚ダ多シ」

「破裂ノ当時ニハ殊ニ山ノ近傍半暗黒トナリシヲ以テ能ク発火ヲ認得タリト云フ」

「最初蒸気ノ噴出セシ際ニハ柱状ヲ成シテ空ニ現レタリ猪苗代ニ於テ見タル人ノ話ニ」

「地震微動（中略）（以上檜原村小学校教員大塚彦治日記二拠ル）」

これらは一例に過ぎないが、これだけでも聞き取り調査が実に詳細に行われた様子が分かる。そして、7月31日には入山して、8月8日の下山までの9日間、さらに現況の調査を詳細に実施したのだった。

こうした調査を取りまとめて文部省に報告したのが、官報掲載の「磐梯山破裂実況取調報告」だったわけだ。

ところが、その無理が祟って肺結核の再発。「熱海へ療養」（桑原2014）を余儀なくされたのだった。

4 明治熊本地震と関谷清景

病魔に蝕まれた身ながらも、明治熊本地震の調査のために来熊した関谷。その思いは、どんなところにあったのだろうか。このことについて、東京大学地震研究所の桑原史治は、次のように書いた（桑原2014）。

「翌年、熊本でM6.3の強震があり、磐梯山の記憶も新しくなったため、地元の金峰山が噴火するのではないかという風説が広がります。彼は病をおして帰京し、菊池理科大学長に熊本出張を直談判します。鉄道はやっと、新橋―神戸間が開通したばかりのことでした。」

小藤から知らされた金峰山噴火の風説の様子を受けて、急ぎ神戸からの船便で長崎、そして熊本に向ったのだった。

『熊本明治震災日記』によると、到着した関谷は、翌日の12日、早速金峰山に登った。

「関谷教授は地震取調へに要する器械を携へ本日より西山へ向け出張せり尤も彼西山中震動最も劇しき

所を下して器械を据へ付け験測せらるる筈に付数日間山居の積にて職工（大工鍛冶職）炊夫まで連られ自身は山駕も病を扶けて登山せらるる右に付県庁よりは蘆田属か随行されたり」

ここに記された「地震取調へに要する器械」こそ、ユイング開発の器械を改良した関谷式「簡単地震計」（関谷1886）だ。設置のために組まれたスタッフには、大工や鍛冶職人、炊事人なども加わっていた。それもそう。正確な観測のためには、地震計をしつかりと設置する必要があった。

験測所に選ばれた所は、飽田郡芳野村嶽（現、熊本市西区河内町岳）の「嶽尋常小学校」（1921＝大正10年に野出と東門寺の2校と合併して芳野小学校に）。

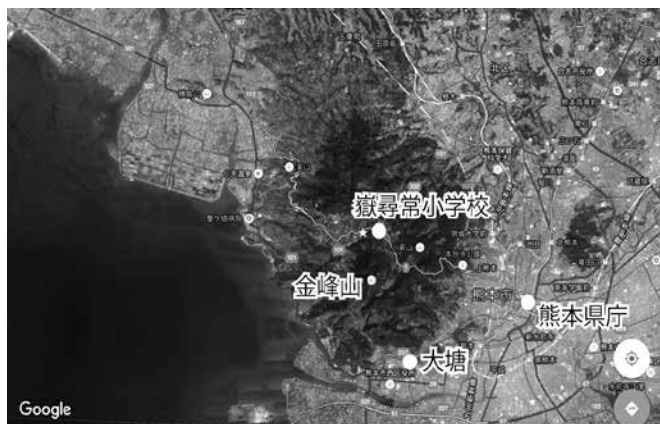
「校内の一間（四坪）の床を廻して即日器械据へ付の準備に取掛られたり」

そして、その作業は、翌日も続いたようで、13日の九州日日新聞に載った記事が、『熊本明治震災日記』に引用掲載されていた。

「試験場は芳野村大字嶽の尋常嶽小学校にて萱葺の長き一棟を以て之に充て其内の一間（二間に二間）の床と小根太とを廻し地盤を固め其上に平石を据へ

器械は其上に安置したり験震器二個験震時計二個にして其据へ付け及び薬品の調査等は余程手間を要するかことし且験震器械は少しにてもこれに触れまた足音の高くしてを感動を与ふるものなれば本日は人払ひを爲しおり云々」

このように設置された簡単地震計での観測は、14日に「第五高等中学校教頭西村貞氏外三四名の教諭は兼て関谷氏より借用依頼ありし器械を携へ本日西山に赴きたり（熊本新聞）」との器械追加によって体制が整ったようだ。そして15日から



関谷式簡単地震計設置場所

本格的に観測が始動した。

15日の観測では、「熊本県知事富岡敬明殿」宛ての報告がなされていた。これが第1回目の報告で、長文だが、具体的な観測内容が分かることから、引用しておこう。

「午後四時四十九分三十秒に発したる地震を嶽村に於て験測するに其結果左のことし／該地震の性質は甚だ急速にして上下動横動相混して起り横動即ち地の横に揺れたることは二十九回にして二十三秒間に於て静止し其最大なる時に当りて一分（曲尺）震動せり而して震動の方向は主として南北なりき又上下動即ち縦に揺れたるは終始十九回ありて六秒間に於て静止し其の最大なるは三厘なし」四時五十三分に微震し又五時二十七分より極微の地動二分間余継続したり因に云嶽村の地たる岩石質にして堅硬なる故に震動は柔軟の地に於るよりも感すること少し／明治二十二年八月十五日 理科大学教授関谷清景／熊本県知事富岡敬明殿」

続く16日には、「八月十六日午前零時より午後十二時に至る」間の「第二報告」が、17日には「第三報告 八月十七日午前零時より午後十二時に至る」が、18日には「第四報告 八月十八日午前零時より同六時迄地震計に感す

『熊本明治震災日記』の8月24日の記事にあったので、抜き書きしてみよう。

「関谷大学教授は本月十八日以来飽田郡城山村大字大に於て地震験測に従事せられたりしか目今の処にてはたして異兆もなく殊に氏は従来肺患に罹り弱体にて今回十数日來の奔走に疲労せられたれば暫く休養の爲め本日より当地を出発三角港に趣かれたり尤も別段の徴候あれば電報次第に帰熊せらるる筈なりと云」

「当地を出発三角港に趣かれたり」とあることから、百貫港から船で三角港へ渡ったのだろう。また、この措置に伴って、地震計の再移転も計画されたようで、そのことが次のように書かれていた。

「右に付き大塘に据へ付の器械は近日に其装置を解き県庁構内へ移され関谷教授の不在中は随行員が専ら観測に従事さるる、筈なりと云ふ」

その日は、「第九報告（続き）」の最後に「廿九日は大塘へ装置ある器械を解き本県庁へ移送するを以て」とあり、29日のことだった。また、30日には、「（前略）午前七時より他の器械据付の爲め室内騒々しく午後一時迄験測する能されど一時以後験測されし（後略）」とあり、本

へき震動なし」が行われた。そして、その日の午前6時30分には、観測を中断、次の観測地「飽田郡城山村大字大塘」の「同村大村求三郎居室」への移転準備に入ったようだ。

「午前六時三十分より位置変更のため器械を解き移転の準備をなし正午より之れを移転地飽田郡城山村大字大塘に運搬し同村大村求三郎居室（高橋川南塘の下にあり）に装置し午後八時に至り整備せり」そして、移転は、午後8時に完了し、すぐに観測が再開された。そこでの報告が、「第五報告 八月十八日午後より飽田郡大塘村に於て地震を検測する左の如し」だった。

「飽田郡大塘村」での観測は、28日まで続けられた。その間、次々と報告が行われた。「第五報告（続き）」（19日）、「関谷教授が大塘村にて験測の第五報告の続き」・「右同第六報告に云う」（20日）、「第六報告の続き」（21日）、「第七報告」（22日）、「第七報告（続き）」（23日）、「第八報告」（24日）、「第八号報告（続き）」（25日）、「第九報告」（26日）、「第九報告（続き）」（27日）、「第九報告（続き）」（28日）。こうした最中、地震もある程度安定していたようで、体調が優れない関谷のために、療養の措置が講じられた。

格的な観測は、30日の午後1時以降であったらしい。その結果、「県庁にては構内に器械を据付けられしを以て宿直及び震災係の別調査は本日午前中に止めらる」とあった。最新式の関谷式簡單地震計の導入によって、当時震災係員の体感に頼っていた観測体制が刷新され、地震計への一元化が図られたようだ。

「県庁構内に据付けられし関谷教授携帯の地震験測器械本日の験測は左の如し／八月三十一日午前十時四十七分四十二秒微震●午後四時十六分鳴動●全四時三十五分全●全八時十五分三秒全」

関谷式簡單地震計による地震観測の記事は、8月31日のこの記事を以て終了した。と同時に、この日記そのものもまた、終わりとなった。しかもまたこの日は、帝国大学理科大学教授の小藤文次郎が熊本での調査を終えて、三角港から長崎に向った日でもあった（木崎2016）。ジャーナリスト、水島は、関谷と小藤が熊本から離れたことと、観測器械の一元化と観測精度の適正化が行われたことを以て、明治熊本地震の取材を終えたのだった。

それほどまでに、関谷と小藤の現地調査は、シンボリックな出来事だったわけだ。

関谷式簡単地震計による観測結果一覧表（木崎作成）

観測地	報告	観測日	観測時刻	地震計	備考
岳尋常小学校	第一報告	8.15	PM04:49:30 PM04:53 PM05:27	極震？ 微震 極震	甚だ急速
	第二報告？	8.16	PM02:00 PM05:55 PM07:57	微震 弱震 弱震	
	第三報告	8.17	AM11:25 PM03:05	弱震 弱震	
	第四報告	8.18			午前〇時～午前6時まで、震動なし。
城山村大塘	第五報告	8.18	PM09:50	微震	地震計を城山村大塘に移動。
	第五報告（続き）	8.19	AM03:12 AM09:12 AM09:30 PM05:46 PM07:23:39	微動 微動 微震 微震 微動	
	第五報告（続き）	8.20	AM11:29	微動	正午～午後12時の間、地震感じず。
	第六報告	8.20			
	第六報告（続き）	8.21	AM00:23 AM02:23 AM10:20:43	微動 微動 鳴動	午後9時～10時に地震あるも観測できず。
			PM11:03 PM11:12:52	微震 微動	
	第七報告	8.22	PM05:21:10 PM08:02:20 PM09:32:10 PM09:42:10	微動 軽震 軽震 微震	
	第七報告（続き）	8.23	AM0:45 AM01:59 PM10:31:44	微動 微震 鋭敏なる地震	
	第八報告	8.24	AM03:14 AM05:25:43 AM10:05:20 PM01:00:43 PM01:56:50	軽震 微震 微震 微震 微震	この間、器械不調のため、観測できず。
			PM02:26:21 PM05:11:25 PM06:49:59 PM08:15 PM09:45:35	軽震 微震 微震 鳴動2回 微震	
	第八報告（続き）	8.25	AM09:04:29 AM10:20 AM12:44:11	軽震 鳴動 軽震	
	第九報告	8.26	AM04:18:55 AM04:28:19 AM05:30:15 AM06:10:44 AM06:25:15 PM00:32:10 PM02:27:24	軽震 微震 微震 微震 微震 微震 微震	
	第九報告（続き）	8.27	PM06:05:21 PM03:32:32	微震 微震	
	第九報告（続き）	8.28	AM01:39:30 PM06:25:36 PM10:49:26	微震 微震 微震	
		8.29			観震器等移転のため、観測は中止
	県庁	8.30	PM01:051:8 PM06:52:26	微震 微震	
		8.31	AM10:47:42 PM04:16 PM04:35 PM08:15:03	微震 鳴動 鳴動 鳴動	

5 おわりに

関谷の記録は、8月24日の記事以後、『熊本明治震災日記』には現れていない。その辺の事情を教えてくださいのが、桑原の次の記述だった。「彼は体調を崩し長崎で入院、神戸での療養に戻ります。」（桑原2014）おそらく、長崎の病院に入るために三角港に向かったのだろう。

「地元の金峰山が噴火するのではないかという風説」から、病をおして「菊池理科大学長に熊本出張を直談判」しての調査。その中で、「動揺する人心の安定と、そのための正しい知識の普及の重要性」を悟ったそうだ（桑原2014）。そして起こったのが、1891（明治24）年の、M8.0の濃尾地震。ところが、それに肉体的に係わる自力は、関谷には残されていなかったらしい。

「体調すぐれぬ彼は帝国大学総長に宛て、ミルンや大森らの現地への出張要請を打電し、自らは故郷での調査こそできませんでしたが駕籠に乗って視察。動揺する被災者や企業・政府に向けて、『震災地方の人士に告ぐ』等を矢継ぎ早に書き上げ送付します。」

かくして関谷は、1896（明治29）年1月8日、肺結核のため、療養先の神戸において41歳の若さで卒。

何故に、関谷が病を押してまで、熊本入りにこだわったのか。命を懸けてまで、濃尾地震への対応に心血を注ぎうとしたのか。それはまさに、明治熊本地震において、小藤文治郎と共有した「動揺する人心の安定と、そのための正しい知識の普及の重要性」（桑原2014）に他ならなかった。

そして、もう一人、調査のために来熊した物理学者がいた。次回は、その人物を取り上げよう。

【引用・参考文献】

大迫正弘・野口和子 2006 「一ツ橋と本郷での簡単地震計による地震記録」『地震研究所彙報』81、東京大学地震研究所

木崎康弘 2016 『明治熊本地震』と小藤文次郎』『くまがわ春秋』3 人吉中央出版社

桑原央治 2014 「世界初の地震学教授 関谷清景（1855―1896）」『日本地震学会公報紙 なゐふる』96

日本地震学会

関谷清景 1886 「簡単地震計」『東洋学芸雑誌』3―53、東洋学芸社

野口和子・中村操・津村建四朗・大迫正弘 2007 「地震研究所および国立科学博物館に残された関谷清景・大森房吉の観測帳について」『東京大学地震研究所技術研究報告』13、東京大学地震研究所

水島貫之 1889 『熊本明治震災日記』活版社

せきれい 鶴 短歌会

六月詠草



若夏の青葉の蔭に憩ひつつ八十路迎える明日を思ふ
五月雨が色染め行くか紫の花鮮やかに水面に映えて

守永 和久

傘寿にて市房山に挑みけり一步一步を人生に重ね
二十四万の御魂の想い如何ばかり平和の礎に祈り捧げむ

河内 徹夫

贈り物お互いやめて記念の日食事と会話に幸あわせ重ぬ
家裏に年ごと広がる路の株母亡き後は採る者なくて

中村美喜子

突然に倒れし妻に困惑す三度の賄いなす術知らず
賄いの食材求め兎も角も勇んで帰宅されど不評に

西 武喜

一日をゆつくりせよと書見舞う嫁は二泊の帰省で手伝ふ
弱音など吐かぬ夫が吾の押す車椅子にも礼をして居り

釜田 操

歳重ね傘寿はもとより米寿まで長生きできる時代くるとは
追憶の思い出街の姿なく記憶たどりてひとり彷徨ふ

緒方 保正

災害に逢った友より便りあり仮設生活まだまだ続く
怪我をして自由に動けぬもどかしき我が行いに反省しきり

中原 康子

ばかばかの陽気につられ草ぬけばはじける種子に腹を立てつつ
雨の日に純白に咲く紫陽花を嫁に出す気で手折りし配る

三原 光代

冬晴れの雲なき空に鳶一羽高きにありて悠然と舞ふ
夕陽浴び数多の雲の流れ行く月日の流れ我が身に迫る

橋詰 了一

病む母を斎藤史の詠みし歌「無明無限」に魂揺さぶらる
戦場の焼け跡に立つヴィヴィアン・リ「タラの地守る」今も脳裏に

堀田 英雄

私たち昭和9年、10年生まれの者は昭和20年8月の敗戦で、教育制度が6・3・3制（小学6年・中学3年・高校3年）となり小学、中学は義務教育となった。また、敗戦で、日本（内地）に中国、満州、朝鮮、樺太で比較的優雅な生活をしていた日本人達が一度に帰国してきた。川村（現在の相良村）にもこの引き揚げ家族が親戚を頼って入村して来た。

人吉高校の一部を借り新制中学の東陵中学が誕生し、その2年生は人吉東校出身者で、そこに川村中学2年生が5人、8キロの道のりを越境通学したのを自称「川村民族」と言った。

私たち人吉一中一回生（昭和25年

「川村民族」

瀬戸致行

春卒業）は文集「二中時代」を平成2年、平成7年、平成12年にそれぞれ発刊しているが、その中にこの「川村民族」のことを載せている。

「私は「川村民族」の一員で川村（相良村）からの通学生でした。戦災に遭い疎開者であった私には自転車

村から8キロの道程を自転車通学、特に冬は霧の水滴が体の前面に氷着していたような事が印象に残っております。そのお陰で足腰が丈夫で還暦を過ぎた現在、ゴルフ場で歩く速さは若い人に負けないことを自慢している今日この頃です。」（西徹也君）

も無く下駄で8kmの道を通いました。冬の課外後下校する時にはすでに夕闇で、火葬場や墓場や森の中を二人、月明かりをたよりに帰る心細さはいまだに忘れがたいことです。」（岩松孝君）

「私の中学時代の思い出は、現相良

格も良く、喧嘩も強く、勉強も抜群だった。樺太から引き揚げて来た加登住道君はその頃は痩せてひ弱な感じで、インドのガンジー首相に似ているので「ガンチャン」の愛称で通っていた。5人目は川辺邦道君で、東陵中学2年の3学期から

越境入学したが、生粋の川村出身だった。

この「川村民族」5人は中学3年になり、土手町の人吉高等女学校校舎が人吉第一中学となったので、更に、遠距離（8km）を通学することとなる。川辺君によると当時、下駄通学だったので、早く下駄

の歯が揃えるので、川村の自宅からは下駄を腰に結わえ、裸足で通学し、人吉に入ったら下駄を履いたそう。また、帰りは空腹で、道ばたの「からいも」を掘って、洗って生でかじったとのこと。また、高校生が待ち伏せしていて、その頃水量も多く流れも速い球磨川で競泳さ

せられた。

5人は人吉高校に進み、小島は慶応義塾大学経済学部、加登住は東京大学法学部、西は関西大学経済学部、岩松は日本大学文理学部、川辺は玉川大学教育学部へと進学して行った。

【せと・ちこう。元産科医、人吉市】

郡築干拓の農業④

磯田 毅

熊本県も含めて日本の農業は、経済のグローバル化が進む中で大きな試練にさらされています。自然からの影響を最も受けやすい農産物をただ価

格だけで競争することはとても危ういことです。国によって農業生産の背景は全く違いますし、国民所得も違います。価格の大きな要因である生産

コストは工業製品や農家の人件費ですが、コメなどに見られるように単純にコメの販売価格だけが取り上げられ、肥料や農業機械などの工業製品への批判はほとんど聞きません。単純に今だけの利益を追う求めるグローバル化は間違いだと思いますが、残念ながら政治の方向は逆の方向を指しています。真のグローバル化は価値

基準を二つにするのではなく、価値観の違いをお互いに理解し認め合うことだと思えます。勿論、自由貿易の恩恵を全部否定するわけではありません

んが、お互いの利便性は相互に同等でなければなりません。そういった意味からすると、現在

TPPを巡る議論の内容には全くその視点が無くなっています。政府はTPP協定が発効しても影響は限定的として対策を講じれば持続可能な農業が実現できる、としています。コメ作りでは栽培面積の拡大や、JAへ肥料や農薬・農機具などの値段を下げコスト低下につなげば十分に対応できると見えています。しかし、農水省は1俵当たり16000円前後と見るコメのコストを二体幾ら下げれば強い農業に繋がるのか、とても可能なこととは思いません。7000円前後と思われるカルフォルニア米には到底太刀打ちできないでしょう。

一方、郡築農業の中心であるトマ

トへの影響については、関税がわずか3%であることや鮮度の競争力などで影響は限定的とされています。しかし、トマトケチャップなどの関税は29・8%と高く、しかも国内の加工用トマトは3〜4万t（八代地域の生食用トマト約5〜6万t）生産されていますので、即関税が0%（すべての野菜）になるTPPでは価格への影響によって加工用栽培からの撤退は避けられません。つまり茨城県や長野県の加工トマト生産が生食用トマトへと切り替わり、特に秋を中心に供給過剰が起きるのではないかと考えます。この様に郡築地区を始めとする野菜生産農家への影響はかなり大きいのではないかと思います。問題はこれに気づいている人が少ないことです。

【いそだ・こわし。農業、八代市】



郡築トマトの選果場。最盛期の12月には1日2万箱が出荷される

方言を味わう④

ひゃーしの祇園さんみやり

前田一洋

タイムスリップ

「さなばり」祝い

「田植えも、おかげでよかんびやりしめたなア。今年のサナボリも、いつもんごギヨン（祇園）さんみやりどもしてみゅうかじやら。ヒヤーシ（林）のお湯に入つてたい」

「やア、すぎやしてみゅうかじやら。馬も明日が伯樂どんの来て、血刺してもらうげなで、ゆつたらとゆくわせて、おどもも湯にどもつ

かつてみゅうや。麦刈つからずつと、がま出しずくめじやつたで、あぶのうホネクサうち出すとこつじやつた。ギヨンさんにもお賽銭をばえろう上げてみやらんばんたい」

今から八十年ばかり前、人吉球磨の農家の人たちは、こうして田植えあがりの「骨休め」に出掛けておりました。ヤード（藍田）へんしは矢黒神社あたりから球磨川を渡し舟で薩摩瀬の方に渡ると、いささか旅行気分になりました。

○西間から矢黒へ

それでは西間下のイワゴチ（岩河内）あたりから先の会話を、そろつと聞いてみましょう。着物姿のダンナはカンカン帽をかぶり、尻をからげて下駄履き。カカしやんは緋の単衣に博多帯、木口の手提げが洒落ています。

「今のとこれ、ヒティシ（人吉）のお城のでくつ時にや、ここへんから石をば切つ出やて使いやいたとげなで。ほら見てんきや今でつちや石垣イ良か岩のごろんごろんしとる」

「ほんとなア。あすこの西間公園の天狗岩どもが太さ太さや、おとしかごたるばい」

「あぎやん岩にヤちゅうてから、石ノミと金槌をば使うて、いくつも穴ほぎやーて割つおつやつたとげ

な。それをば荷車やうせて、お城まで曳いて行きおいやつたで、今でつちや十文字へんから先をば車道ちゅうとたい」

どうやら二人は今の人吉警察署の前、山つきの旧道ですが、そこを少し通り過ぎて「うちだ屋」さんのあたりに来ているようです。その左手の杉山がかつての西間公園でした。

このあたりから気をつけていると川、といっても小さな溝みたいな流れですが、それまでとは反対に、西へ向かつて流れています。大げさに言えば「分水嶺」で、微かなながらも峠になっている所です。そして矢黒地内に。

○雨吹岳の霊験は

「いつの頃じやつたきや、ナガシ（梅雨）の上がつよか早うから日照つ続きで、あぶのう稲のきや枯るつとこつじやつたでにやア」



「どうぞ雨をば呉れてくだはんもし」と鳴り物入りで祈った。
『図説日本民俗誌・熊本』より

「来る日も来る日も天気続きでな、かみやげへんじや水喧嘩まであつたて聞きおった」

「おまいが嫁入つて来た明くつ年ぐりやじやつつろ。おどもも蚊帳牛作つたり、太鼓踊つして、あすこの雨吹岳に拝みきや行たことのおつたたい。兵隊さんたちの大砲も撃ちやつたぐたつた、戸越の兵舎の工兵隊たちの」

「そうしたいば、あんじゅら降つきやうつたつたでな。大畑に久蔵雲の出たぞう、ちゅうて向かいの爺さんのオメきやいたたいば、はざむのうゴロゴロやつきやうつたつてばい」

今では矢黒町の靈感スポットとなっている「雨吹岳」は、古くから雨乞いの山でした。山頂には修験者「心覚坊」の墓もあります。秀吉の

朝鮮出陣の折りに山中に捨てられていた子供を、相良の殿様長每（二十代）が連れて帰り立派に育てあげた人です。

○消えてしまった武家屋敷

そうしたことなど語っているうちに、矢黒神社に着きました。普通のお宮と違って、道よりも低い場所にあります。その川向こうは何軒かの家がありますが、元々は下屋敷（現在の国民宿舎くまがわ荘）をお護りする武家屋敷でした。今は河川改修のために、その一帯はなくなり、国道も通されて、お屋敷の庭園だったところも分断されてしまいました。

「えー、さなぶいで祇園さんみやりでござんもすどか。そら結構な

事でござんもす。よかんびやーに、今日は川も平水でござんもしたで危のうもぬせじに、よござんもした」

「ときにじぎやでござんもすどか、今年のアイのイワは。たしか、こないだから解禁でござんもしつろ。戻りにや町でアイの背こしば肴や、焼酎どもたもろて思うとんもすで」

「いさぎイ獲れおつもすどかい、そいくさコブからどもが、どこでつちや上がって」

「ひやーからコブかりやのおつもすどか、そらいきや美味かめやーもすどろ。楽しみなこと。おろろひや着きもしたなア、あがとーししやぎもした。いくらでござんもすどか、あー、たつたの五十銭でござんもすどかア」

西浦村と薩摩瀬村の悲願であった

球磨川への架橋、それを富田勝平という人が私財を擲つてやり遂げた。いわゆる「富田橋」だが、あろうことかその年の洪水で流出。又もや渡し舟のお世話になることになったのだ。

その頃は球磨川のダムもなかったために、アユもウナギもツガンも海から直接に上つて来ていた。アユなど川を歩いていると、それこそ「踏んしやぐ」くらいにいたのである。

○見ず知らずの家で

「せつかく来たで、じゅーぐりーつとお殿様のお屋敷ども眺めて行こうかじやら。見ろそ築山どもがあつて美くつさや。そいども、ずつと昔のこと、竹鉄砲事件ちゅうとのあつたとげなでまい。悪者が殿様をば鉄

砲で狙うて撃ち殺したとげな、たしか矢黒ん方から」

「おどましらん、そぎやオトしか事のあつたとな。あーいた、あゆび通しじやつたで喉の乾やてぬさん。ちよこと、その家で水貰ろて飲うでよかつどか。つるべのあるばい」

「ごめんくだはんもし。いさぎすんもさんども、カ力が水の欲っしやしとんもすで、一ぴや飲ませてやつてくだはんもさんどか」

「どろぞ、存分にぬうで行たてくだはんもし。えー浪床からでござんもすどか、あし共も、まいきやにお薬園まで行きもすとないどん、一道ござんもすでな。ゆつつらと、ゆくうて行きなはんもし、お茶なつと上げもそ」

親切なものです、通りすがりの人

が水を乞うたのにお茶まで出してくれました。そして茶請けには瓜のキノモンが添えてあります。表札を兼ねた日本赤十字社社員章には、たしか椎葉某と書かれていましたので家中（かちゅう・相良家一族）の方の家なのでしょう。

○祇園様になまんだぶ

十分に茶のお礼を述べ、「薩摩瀬おだま」を辿つて「ひやーしの湯」に向かいます。その温泉は、今の翠嵐楼やたから湯があるあたりです。また下林の大和一酒造や樂行寺のいきへんにも温泉宿があつたようでしたので、そっちの方に行つたのかもしれません。そこまでも一道ありますが、「おろろネギをば、もう植えてあるばい」「ここへんの白菜は、ふー



祇園様が祀られている八坂神社（人吉市下林町）

きやん美味かとげなでな」などと語っているうち「おいでなはんもし」という事に。

ところで人吉温泉には、不思議な言い伝えがあります。元々は山田の「湯の原」に出ていたのですが、近くの婆どんが粗末なことしたので

山に行こうよ! その①

2016 年5月3～4日

大崩山 標高 1,643 m

宮崎県延岡市北西部 (九州山地)

「人吉球磨ハイキングクラブ」通信より



5月3日、GWで混むだろうと朝7時人吉発。意外にも車が少なく、は地震が影響しているのだろう。松橋インターを出ると、屋根にブルーシートをかぶせている家が日立つ。休憩した通潤橋にもかぶせてあった。天気予報通り、9時過ぎから弱い雨が降り出した。

高千穂峡、青雲橋と道の駅でゆつくりしたが、宿舎の鹿川山荘には1時過ぎには着いてしまった。その頃は雨が土砂降り、山荘の前の沢は凄いい音を立て、茶色い濁流が渦巻いていた。

5月4日、昨日の雨はウソのように上がりのいい天気。6時

前に朝食を済ませ、6時半には車に乗って出発。7時、宇土内谷の駐車場に着く。

林道をしばらく歩いて7時半、大崩登山口から杉林の急坂を登り始める。8時5分尾根に出るが、そのころからミツバツジが目につくようになってきた。しかし風が強い。アケボノツツジもチラホラ花を付けているが、昨日の雨風に飛ばされたのだろう。傷ついた花びらが山道を飾っている。遠くに鹿納山の岩峰が見える。カメラを向けながらゆつくり登り、9時25分第1ピークを過ぎると上りが緩やかになって45分、鹿納分岐、石塚を経て、10時25分頂上着。

頂上からの眺めはスズタケが無くなって少し良くなっているが、ツアーの登山客が多く

上がってきたので、展望の良い石塚に戻り、昼食にする。アケボノツツジの花は頂上付近はまだ散ってなくて、写真を撮ったりしていると、また人が多くなったので、早々に下山を始めた。気持ちよく下ついていたが、また急に右足の太ももがつってしまった。すぐに漢方薬の68番を飲み、あとは慎重にゆつくり下る。

今回の山行は久しぶりの大崩、鉾岳と両方が初めてのコースで、楽しみの反面体力的に少し心配だったが、何とか登ることができてホッとしている。輝くような新緑の中、可憐なアケボノツツジの花にまた会うことができた喜びとスケールの大きな沢の流れの素晴らしさ、美しさを堪能することができて楽しい山行だった。【徳澄恵子】

その湯は井ノ口八幡さんの境内に移ってしまいました。ところがここでも婆さんがイジ悪をしたために、とうとう「ひゃーし」に行つてしまったというのです。「あー、良か湯じゃった。お陰で足や腰もぬうたばい」

「いつ来たつちや、この祇園さんな美しくしゅうしてあつな。見ないアジサイどもが美しくつさや。そして珍しかどのどしこでつちや植えてあるばい。どら、今年も虫やら病気のつかじに、作のゆうでくること参やろい」

「ないば上がらせてもろて、しんから参やらんばんたい。そして戻りにやゴツドン（牛頭天王）のお札も頂やて行かんばんたい、稲に虫やら病気の寄つ付かんこと。湯屋から神しゃかきも貰うて来たで花水も替えてお線香もあぎゆうや。あーなんまんだぶ、なんまんだぶ。どうぞ今年の作もゆうでけもすごと」

祇園さんは本当は神様なのだが、昔からの習慣で、「南無阿弥陀」と言いながら拝んでも、ちゃんと願いは聞き届けて下さるのだ。

なんとも有り難い神様ではござらぬか。

【まえだ・かずひろ。人吉市】

くまがわ狂句

村上鬼拳

すんなり 経営側も物足らん
苦勞人 冬が一番好いとらす
朝も早よから ゴム長に鉢巻の母
個室 落花狼藉だつたらう
はがいが 村の沈むと眺めなん
酒不足 何十票が減るとなあ
アルバイト 先はデッカイゆめのある
はがいが いまでも「野」に呼びこん
夜の部で 芸域の広がりました
久し振り 増配させてもらえそう
抱きしめて この幸せの逃げんごつ
遊び上手 夜の票なら任せんか
素晴らしき 一生賭ける職のある
処方箋 この患者なら絞れそう
惜しい人 酒に惚れられ過ぎました

【むらかみ・きけん。人吉市】

人吉藩の地震

一、宝永四年（一七〇七）の大地震①

尾方保之

はじめに

熊日の報道によると熊本地震の死者は、関連死や不明者を含めて七十名、負傷者は千七百名を超し、建物の被害は十四万棟にのぼるという。この地震の被害額はいつたいどれほどになるのだろうか。復興プランも先になるようである。

熊本の新ボル熊本城も大被害を受けた。残念でならない。六月十八日の熊日によると天守閣、飯田丸五階櫓、本丸御殿の復旧費が二百十億円、崩落した石垣の復旧費が三百五十億円、合わせて五百六十億円と試算。さらに増える見込みという。復旧にどれだけの年月を要するのだろうか。

この熊本地震をきっかけに江戸時代、人吉・球磨で発

生した大地震について再度調べなおしてみようと思った。

筆者は約十年前の平成十九年、「週刊ひとよし」に「人吉藩の災害」と題して三十二回にわたって連載したことがあり、地震についても取り上げている。その地震とは宝永四年（一七〇七）十月に発生した「宝永の大地震」と安政元年（一八五四）の「安政の大地震」であった。この二つの地震の資料を再検討し、その概要を紹介することにより私自身、地震の実態と藩政への影響について考えてみたいと思った。

（一）地震の発生

日本は本場に地震の多い国である。『国史大辞典』（吉川弘文館）によると、全世界の地震の約一割が日本周辺で発生しているという。そして江戸時代に発生した大地震（マ

グニチユード六以上）として五十七回が記録されている。

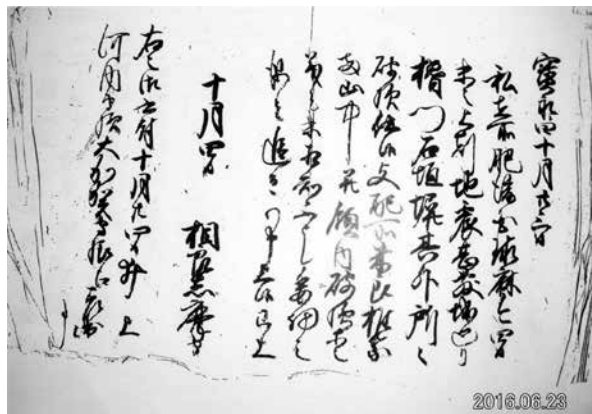
その中で、わが国最大の地震（マグニチユード八・四）として記録されているのが宝永四年（一七〇七）十月四日の地震である。この大地震について、『国史大辞典』は、

「わが国最大の地震。家屋倒壊駿河から土佐に及ぶ。津波は伊豆・九州間を襲う。とくに土佐の津波被害甚し。死者二万余。流・潰家六万余。」と

している。

この大地震と同時刻だったかはわからないが、人吉球磨は十月四日の午後二時（未）、大地

震に襲われた。この大地震について『南藤曼綿録』



宝永の大地震『相良文書』（県立図書館蔵）

「宝永四年十月四日未刻大地震、求麻御城ノ護摩堂并塩蔵所ノ石垣、原城御門大破、又諏訪宮石鳥居ヲ始メ所ノ石灯籠一ツモ残ラス打破ス、其外郡中割ノ半銅鑼子二当リ何百ト云数ヲ知ラス、尤モ神社仏閣在家ノ破損ハ申スニ及ハス、誠ニ前代未聞ノ大地震也。」と記している。特に人吉城の護摩堂や塩蔵をはじめとする建造物や石垣の被害が大きく、前代未聞の大地震であった。

『相良文書』（県立図書館蔵）によると藩主相良志摩守（二十三代頼福公）は、幕府に対し十月四日付で次のように報告した。（読み下し文）

私在所肥後球磨、今四日未刻地震甚敷く城廻り櫓門石垣塀、其の外所々破損仕り候。支配所米良椎葉両山中並びに領内破損等の儀は追々申し上げ可く候、以上。

十月四日、相良志摩守

この書付は十月二十四日、幕府の老中井上河内守と大久保加賀守へ差し出された。まず地震に襲われたことを幕府

に報告したのである。

(二)被害の実態と幕府への報告

その後、十月十日付で城内及び領内の破損箇所をまとめ、十一月六日に御用番井上河内守へ提出した。それが次の書付『相良文書』である。(読み下し文)

先達て申し上げ候通り私在所肥後国球麻去る四日地震に付城中並びに領内破損の覚

一、本丸

一、高岸ニヶ所少つ、崩くえ

〇一、門 壺ヶ所潰つぶれ

一、二ノ丸

〇一、櫓門 壺ヶ所石垣共崩

但石垣 高四間横拾貳間

〇一、石垣 高壺間横二間 孕はらみ

一、二ノ丸より本丸への道坂土留石垣高貳間横壺間半崩

一、土塀 四拾五間瓦落所々破損

〇一、土塀 五間崩

一、土蔵 壺ヶ所大破

一、高岸 三ヶ所少つ、崩

一、三ノ丸

一、土蔵 三ヶ所内貳ヶ所崩

壺ヶ所破損

一、高岸 三ヶ所少つ、崩

一、本丸二ノ丸三ノ丸家作大破

一、郭内居宅石垣 二ヶ所孕

内

〇一、壺ヶ所 高貳間三尺横六間孕

〇一、壺ヶ所 高貳間横貳拾貳間孕

〇一、追手多門櫓東ノ方へ壺尺余傾

〇一、外曲輪櫓門 壺ヶ所崩

〇一、惣外曲輪塀所々瓦破損

一、家中侍屋敷少々破損

一、町屋少々破損、潰家貳軒

一、寺社少々破損、石の鳥居貳ヶ所倒

一、民家 貳拾八軒潰

一、往還道 三ヶ所崩

かつたようである。なお文書の〇印は、その後修復願いに提出した破損ヶ所と思われる。

- 一、所々山岸崩貳拾ヶ所 田畠少々潰申候
- 一、怪我人御座無く候
- 一、牛馬別条御座無く候
- 一、支配所米良椎葉両山中

右同刻地震仕り候得共山中別条

無し、尤も怪我人等も御座無く候

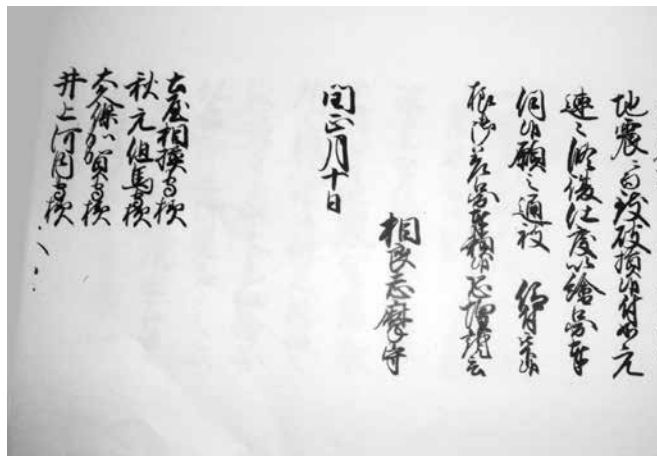
右の外相替る儀御座無く候、已上。

十月十日 御名

これからわかるように、本丸や三の丸の南側の崖(岸)崩れ六ヶ所、御館(郭内居宅)の西側の石垣二ヶ所をはじめとする二の丸・三の丸の石垣の崩れや張り出し(孕)、二の丸や外曲輪櫓門や塀の崩れや破損が多数あった。また本丸の護摩堂をはじめ三の丸の土蔵などの建造物がほとんど倒壊している。城内の被害がとても大きかったようである。

人吉城以外の被害として町屋の破損は少なく、民家は二十八軒が倒壊、各地の崖崩れが二十ヶ所、道路の崩れ三ヶ所としている。幸運なことに怪我人や死者は一人も出ていない

【おがた・やすゆき、求麻郷土研究会、錦町】



幕府への修復願書『相良文書』(県立図書館蔵)

上杉芳野の「あがっ段」③

増え続けるバラバラ組

私のボランティアの内容は依頼されたテーマによって中身が違ってくる。ある程度決まっているのが、あさぎり町のバスガール、「会えて良かった」の歌や振り付け、舟こぎソーラン節に変え歌や踊り。踊りも一人で踊る時には早変わり三曲メロディー（若い人向きの曲とお年寄り向きの曲にも分かれるが誕生日会や祭り、お祝い事によっても選曲する）。そして一番のメインは「宝塚劇団バラバラ組」である。

これはその団体の中からヨカ男を選び出し（ヨカ男とは楽しく踊ってくれる

うな人、見るからに人の良さそうな協力的な人、その団体の中で一番偉い人など）5〜6人か10人か、多い時には15人とか20人の時もある。

その人達にいろんな衣装を着て頂き（ムームーや派手なドレスなど）それに帽子やレイ（胸飾り）などを身につけて、出る前に「こんな踊りです」とチョコット練習し後は舞台で見ながら踊ってもらうのである。

衣装部屋（着替え室）に連れて来られた人達は「何ばすつとな、こいば着つとな」と驚いておられる。「それでも自分が好きな

衣装を着て下さう」と言う。「どいがよかるうか、おらこぎやんと着つたア初めてばい、明日から人生変つかも知れんなアハッハッハ」とそれぞれの会話が流れる。中にはあんまり偉いお方が来られると、他の人が「〇〇様はいいですか」と気を使い部屋から出てもらっているが、今度は自分から「いいえいいいですから」と入って下さって皆と同じ様に「どれがいいかな」と衣装を選んでおられる。

私も「ああ〜そいが良かかも知れんですね」と手に持っておられる衣装を薦



あさぎり町旧免田中昭和31年卒業生喜寿のお祝いにて。「皆にここに笑顔いっぱいです」「毎年しょうか」との声も（平成28年5月10日）

め着せてあげる。皆それぞれが身に付けたところで「じゃ、時間ありません

ので行きますよ〜」と言いながら色とりどりの衣装やレイ、帽子などを身につけ

た団体。これこそが「宝塚劇団バラバラ組」である。

「踊りは上手下手はどうざやんでん良かつです。それぞれの衣装で皆さんが笑顔で楽しそうに踊って頂くだけで見ている人たちは楽しい気持ちになりますから、いいですね、ニコニコ笑顔ですよ〜」と言いながら舞台にあがる。曲が鳴り出すと、私の踊りを見ながら真面目に上手に踊る人、自分流に踊る人、それぞれが調子よく踊って下さる。出番が終わり着替え室に入ると「おもしろかったなア、まだ踊ろうぐたるなア、病み付きになるば

い」などと後の会話も楽しそうである。踊っていただけそうでない偉いお方も、日頃の自分を捨てて「師匠」とか「閣下」とか冗談で言われ、又大笑いになる。こんな人こそ部下思いの本当に偉い人だと思う。人の和は、こうして出ていくのだ。

福祉施設・結婚式・還暦・同級会・総会とまだまだ増え続けるであろう宝塚劇団バラバラ組出演者に感謝である。

【うえすぎ・よしの。球磨郡の元気応援団長。あさぎり町上】

マグナ・カルタ (Magna Carta : The Great Charter) ①

鶴上 寛治

マグナ・カルタの「再生」

ジェームズ1世（国王）とコーク（議会）の対立は、前者の死後もつづき、それが権利の請願として結実したのであった。すなわち、ジェームズ1世は1625年に死亡し、チャールズ1世（ジェームズ1世の次男。兄のフレデリックは1612年に死亡していた）が即位した。新王は父王と同じく王権神授説を信奉し専制的姿勢で議会に対抗した。そこで議会側は1928年にコーク起草の「権利の請願」を国王につぎつけ、国王にこ

れを認めさせたのであった。前号で紹介したように、コークの主張は、マグナ・カルタに依拠しつつ、王の権利を制約しようというもので、シェイクスピアが「ジョン王」で無視・軽視した問題（支配者と被支配者の関係）に改めて光を当てるものであった。マグナ・カルタは、コークによって、「再生」されたと言約できる。以降、マグナ・カルタは忘れることはなくなった。

綱引きⅡ内乱

他方、チャールズ1世は「権利の請願」を一度は受け入れたものの、父

王と同じく「王権神授説」を信奉していたことから、翌年には、「国王大権」をもちだして新政を開始し、それに抗議する議会を解散するにいたる。こうなると「綱引き」というよりは「内乱」という言葉がふさわしい状況になり（イングランド内乱）、結局、チャールズ1世は、「清教徒革命」（1649年）で処刑されてしまう。ついでながら、デューマ「ダルタニアン物語」、『三銃士』はジェームズ1世を救出しようとする物語で、チャールズ処刑後も、彼を擁護しようという動きは強く存在したのであった。歴史は単純ではなく複雑な経路を辿ることが、このことでも理解できる。

じつさい、清教徒革命は、リベラリズムなどみずごせない潮流を含んでいたにもかかわらず、1660年に「王

政復古」によって終了し、ふたたび国王（王党派）が勢力をもちかえしたのであった。それでもこれらの「内乱」を通じて王権（王党派）はしだいに弱体化し、1689年の「名誉革命」によって、イギリスの内乱は終結し王権神授説は否定されることになる。ロック『統治二論』は名誉革命の正統性を理論つけた著作で、王権神授説に理論的に止めをさしたのであった。

社会はどのようにしてできているのか

王権神授説は、簡単にいえば、王の権限は、神から付与されたものであつて、王は神に対してのみ責任を負い、神以外のなものも拘束されることなく、国王のなすことに対して

人々はなんら抵抗できない、とする考え方である。たとえば、フィルマーは、名誉革命直前の1680年に、旧約聖書に依拠しつつ、「国王の絶対的支配権は人類の祖アダムの子どもに対する父権に由来する」と説明している（『パトリアーカ』）。神が人間社会をつくり、そのなかでの父親の役割を神は国王に与えたという考え方である。彼によれば、神は絶対であつて、神が国王に与えた権限に逆らうなど、とんでもないことになる。

これに対して、社会はその構成員

の「契約」を通じて統治Ⅱ運営されるとする考え方を「社会契約論」というが、ロックは社会契約論の代表者で、「契約」に反する統治Ⅱ運営がなされているときには、それをくつがえす「抵抗権」が存在するとし、その考え方はフランスのルソーにおよびフランス革命の理論的根拠になっただけでなく、現在でも説得力ある主張と理解されている（たとえば、ローズ『正義論』など）。

単純に考えれば、赤ちゃんに優劣はない。母親から生まれた瞬間には、みんな同じである。もちろん、生まれた地域、母親などの状況に影響を受けて、子どもたちの人生にはちがいがでてくるが、それでも出発点は同一である。「人間は生まれながらにして平等である」という格言はそのよう



ジョン・ロック『統治二論』
(岩波文庫・2010)

な単純な事実に基づくもので、誰もこれを否定できないであろう。ロックやルソーの主張が、現在でも、多くの人々に受け入れられているのも、当然といえば、あまりにも当然であろう。そして、「契約は守らなければならない」。守れないときには、違反者には制裁（サンクション）が加えられる。ロックの「抵抗権」は契約のサンクションにほかない。

むすび

マグナ・カルタは、ジョン王の権限を制約する、ジョン王とその他のものとの「契約」であった。権力者といえども、契約＝憲法に拘束されるという考え方は、まさに、マグナ・カルタに由来する。そこから、権力者は「法の支配」に拘束されるという立憲主義が生まれた。憲法は、権力者の権限をしるものであって、人々を抑圧

するための道具ではない。そうではなくて、人々の利益を守るものこそが憲法だ。憲法は社会を構成する人々の契約（社会契約）にほかならず、権力者はこれに拘束される。現在の憲法はこの立憲主義を基礎にしている。しかし残念なことに、最近、立憲主義を知らない人（あるいは、無視する者）があまりにも多すぎる。そこでマグナ・カルタを素描した。

【つるかみ・かんじ。人吉市】

お寺と戦争④

山本隆英

昭和十六年（一九四一年）

昭和十六年といえば真つ先に浮かぶ事柄は十二月八日の

北太平洋方面動員の兵力は三〇万、南太平洋には五〇万といわれる。この十二月八日は突如として現れるのではなく、積み重ねの成果であり目的であつたのかもしれない。そこで、この昭和十六年の出来事を羅列し、本願寺教団の動きを重ねていきたいと思う。

映画館でニュース映画強制／ドレミファ…を、はにほへと

：に／東条英機の「戦陣訓」
／大日本少年団（五月号既報）
／国民学校発足／米穀通帳制度
／毎月一日を「興亜奉公日」と
定める／東条内閣成立／ハンセン病関連、草津「湯之澤地区」の強制解散／日本らい学会 京都大小笠原登教授を糾弾

熊本では、ハンセン病療養所「回春病院」強制解散、ハンナ・ライト逮捕 後に豪州へ／菊池恵楓園国立へ移管／前年強制解



西福寺に残る「報国團」の腕章

散させられたハンセン病「本妙寺集落」県警により焼き払われる／熊本県少年団結成式典（既報）／鹿本郡来民開拓団満洲へ出発（四五年八月十七日二七五名集団自決）／十二月米英撃滅県民大会／小学校校区では神社で「戦勝祈願祭」（その様子は大量の絵葉書となる。神社のない地区は学校の校庭に臨時の神社を作る）

この羅列には本願寺のことは出していないが、これらの出来事から離れない離れない状況で本願寺も動いていく様子を、西福寺に残る資料からなぞってみる。

本願寺派報国團

昭和十六年十一月西本願寺は臨時宗議会で「皇国の為宗祖の教えに従い背私向公を火の玉の如く邁進する」ためとして結成された。この結成の報道は十二月五日付けの「本願寺新報」で行われる、それは太平洋戦争開戦の三日前である。本願寺新報の見出しを見てみよう。（次頁写真参照）

報国團綱領 一、我等は皇國の御盾なり、決死、

皇恩に奉答せん」

旗のもと綱領體し 蹶起の團員千萬 総本部事務分
掌も決定

團長自ら陣頭に 全国巡回の日程

英霊に捧ぐ

一握のう米 銃後奉公の布教 京都以西に：

もう一度前述の熟語を見てみる。「背私向公」「皇國の御盾」
「決死」「皇恩に奉答」とある。まさに滅私奉公そのもので、
個の存在は公のものであり天皇のものであり、死をもつて天



開戦の三日前の「本願寺新報」

皇の恩に報いると解釈できる。綱領のあと二つが判読できないのが残念だが、そこにも宗教のかからはひとつもないのであろうか。これらは、宗教界のみのことではなく学校教育を中心として進められたであろう。

その学校教育の現在をみてみよう。教育基本法の改正、歴史教科書問題、「道徳」の教科化等々にある方向に進んでいるのだろうか。政治の世界では、海外で戦争ができる道を開く「安保法制」の整備、参議院議員選挙で論点とならない憲法問題等々は、じわじわと昭和十六年に近づいているのではないだろうか。昭和十六年問題として、今まで紹介した五月号の「少年団」、六月号の「大日本婦人会」の他に数点の資料を次号からも紹介させていただく。

大政翼賛会の下、宗教により国に報いることを目的として結成されるのがこの報国団であるが、本願寺派だけではなかったと思われる、他宗派は如何でしょう。本願寺派とは西本願寺派のこと。

【やまもと・りゅうえい。八代市坂本町、西福寺住職】

東京オリンピック④

ボランテイア

荻田吉富

第16回夏季大会は1956年の北半球は冬で南半球では夏である11月22日から12月8日にオーストラリアのメルボルンで開かれました。

ソビエト連邦がアメリカの金メダル32個を抜いて37個、地元オーストラリアは13個の金メダルを獲得しました。閉会式の入場が国別ではなく、各国の選手が入り混じって一体となった形をとる初めての大会となりました。

第17回夏季大会は1960年にイタリアのローマで開催されました。この大会ではソ連が43個、アメリカ

力が34個の金メダルを獲得、しばらくは東西冷戦の代理戦争の模様を呈しています。

かつてイタリアに母国エチオピアを侵略されたアベベは裸足でマラソンで優勝し一躍時の人となり、ボクシングライトヘビー級でクレイ（後のモハメド・アリ）が金メダルを獲得しています。

第18回夏季オリンピックは1964年10月10日に東京で開催され、第二次世界大戦の結果として続々と独立したアジア・アフリカ諸国の参加により過去最多の出場

国数となり、日本はアメリカ、ソ連に次ぐ16個の金メダルを獲得。羽田モノレール・首都高速道路や東京大阪間の新幹線が開通し、オリンピックの記録時計がオメガからセイコーに、報道カメラがドイツのレンジファインダーからニコンに取って代わっています。

小中学校の運動会はPTAが、高校では三年生が強制的に役員に選ばれて運営をさせられますが、オリンピックとパラリンピックでは一般の希望者が競技会場や選手村などで競技運営や会場案内、大会関係者の輸送や警備などを行う大会ボランティアとして選ばれ、主要空港やターミナル駅、観光スポットなどで海外から来る外国人観光客や日

本の観光客に対し、観光案内や交通案内を行う都市ボランティアが選ばれます。

国体や東京マラソンと同じく無報酬、東京までの交通費や宿泊費も支払われず大会運営に従事しなくてはいいませんがジャケット等の大会ユニフォーム、交通機関無料使用パス、IDカード、食券・弁当などは支給され、間近で競技を観戦でき、選手と会話や記念撮影したり売れ残ったチケットが無料配布されることもありますので、お金に余裕のある専門能力を持った暇な都内の年金生活者にとっては絶好の社会に貢献できる場と思います。

活動場所は、競技会場や選手村などの大会に関係する会場で観客サポート・メディアサポート・メダル

セレモニーなどの業務があり通訳等
は一定の語学力が求められます。

募集・運営組織は公益財団法人

東京オリンピック・パラリンピックス競技大会組織委員会では今回約8万人を想定しており募集は2018年夏ごろを予定しており公式サイトから応募入力フォームに履歴書や希望業務など必要事項を入力して送信し面接を受けます。

長野オリンピックの時は希望者にはTOEICのレベルチェックが行われ配置が決まったようです。

開催一年前にプレ大会が開催され業務によつては実地訓練があり担当会場・業務が決定、開催半年前に一般研修・会場研修・業務研修が行われます。

開催期間が大学生の夏休みと重

なるため、単位の取れている前期の試験のない四年生であれば参加しやすいものと思われます。

都市ボランティアの活動場所は空港・駅・観光スポット等で、募集・運営組織は東京都で規模は二万人以上、募集開始は2018年夏頃を予定しています。

東京都は平均約11倍の倍率の修了バッチがもらえ無料の「外国人おもてなし語学ボランティア育成講座」を毎月募集し、2019年までに3万5千人に増やす計画で、小学生・中学生の「おもてなし親善大使」も1千人、手話のできる都民も必要だとしています。

【かりた・よしとむ。税理士・行政書士、東京都】

昭和二十三年元旦に父が記した遺稿④

片岡和紘

五、鶴田家の家系

父の話や過去帳を調べると、大口（現鹿児島県伊佐市）の近くに鶴田という村がある。そこが私方の先祖乙次郎とモヨの在所だという。我が家の墓は二つに分かれているが、孫次郎というところの墓地は十四基あり、すべて乙次郎とモヨの関係者だ。過去帳を見るとそのように思われる。戦地から戻ってから大口の近くに住む戦友に会いたくて鶴田の村を訪ね、鶴田乙次郎とモヨの事を尋ねたが鶴田の姓は沢山あり、昔のことだから分からぬと村人に言われた。

我が家の屋根裏には大小の日本刀が隠してあるが、父の話によれば乙次郎は郷士だったということだ。何故、鹿児島から熊本へ移住したのかは分からない。父は球磨

郡二武村（現錦町二武）元別府の生まれで旧姓は別府だ。母は一武村の一武駅の近くで生まれ、旧姓は千賀だ。二人は若い時から知己の関係だったらしい。縁あつて子供の無かつた乙次郎の養子になった。すぐ隣の上瀬乙二の妻、上永里の豊永悟の婆さんも母の姉妹だ。

嘉太郎は日露戦争の激戦地、二〇三高地で戦つたが、口では言い表せぬ死の戦いだったといっていた。加えて酷寒の地で吐く息さえも氷つてしまうと云っていた。戦死せず帰還できたが、次第に病魔に侵されて行つたのだろう。私が小さい頃は朝まだ暗いうちから、夕方は暗くなるまで働き詰めだったが、次第に床に臥すようになった。肋膜炎といっていたが、結核だったのではないかと思う。

金がないので土地を担保に借金していた。その借入書は今もつてある。すべて高利だった。私も春見も相当額を返したが、元金が少しでも残っているとたちまち借りた時の借金額に戻つてしまう。高利貸しは恐ろしい。貸し主はいずれも大地主だから欲の深い人間だ。父は自分自身に厳しく誠実な人だった。

いつも済まぬ済まぬを口癖のように言っていた。父は昭

和六年一月二十二日に亡くなった。四十七歳だった。前日の夕方、父は私と春見、母を枕元に呼んだ。「この十年、病氣になって皆に迷惑をかけた。元氣になって鶴田家を繁盛させようと思っていたが、それとは裏腹に病氣になって土地は取られ、借金まで拵えた。申し訳ないことをした。もう俺の命も尽きるところまで来た。自分のことは自分が良く分かる。最後の頼みだが、これから實と春見で力を合わせて五人の子供を成人にして欲しい。母を助けて欲しい」と遺言を告げた。その言葉通り父は翌日の朝息を引き取った。

私は熊本県一の山林王といわれた上村麓の犬童氏から、わざわざ面接まで受けて「親孝行で成績抜群だから大学まで進学させてやろう。一生懸命努力しなさい」と言われていたが、父の死ですべてを断念し春見と二人で父の借金を返済し、鶴田家を再興しようと誓い合った。それから二人は朝から暗くなるまで牛馬のように働いて働き、夜は学校に行った、春見は農学校に行ったが、途中で軍人になって身を立てようと退学した。

日の夕方に息を引き取った。明るく健康な子だった。この日、朝早く起きて母の千代子に「お母ちゃん、七夕作って」と一日まとわりつき、免田まで二人で行って七夕の色紙を買い、近くの竹藪で竹を切って、さあ夕飯を食べたら七夕を作ってやるぞという段になって急に「母ちゃん、フミちゃん頭が痛い」と言って横になり、一時間もしないうちに息を引き取った。七夕どころか家族中が号泣して夜を過ごしたのだった。

ミホは八月九日の旧盆明けに亡くなった。絶対死なせるもんか、と人吉市大工町の堤先生のところに入院させたが、一週間であえない最期を遂げた。私と千代子は夜明けを待ち、ミホの亡きからは千代子が背負い、湯前行きの汽車に乗ったのだった。

一緒に乗り合わせたどこかの婦人が、背負われたミホを見て「まあ、色白のムゾらしか子、よう寝とんなつすね」と言われ、私は思わず涙がこみ上げてきたが必死にこらえた。千代子は嗚咽していた。ミホの死を知らぬ婦人は怪訝な顔をしていた。

六、肉親との別れ

この五年で母のミドリ、長女フミ、次女のミホ、弟の春見と弘見、妹のヒロエの六人が次々と亡くなった。台湾から命がけで復員した春見なのに奔馬性の結核を患っていた。戦死にも等しい亡くなり方だった。

母のミドリは病氣ひとつしたことのない健康体で、父亡き後、原野に柿や栗を次々と育てて家計を助けるなど懸命に働いていたが、肩や腰が凝るからといってモグリの按摩師の針治療を受けたばかりに敗血症を病み、五十一歳で旅立った。苦労だけの人生だった。妹のヒロエは水上の田口喜代次氏の嫁になって四人の子供に恵まれ、温厚篤実な喜代次氏と仲むつまじい日々を送っていたのに、結核が判明してからあつという間に亡くなった。小さい子供ばかりだ。これから幼い四人の子供をどのように育てていくのだろうと思うと、暗澹たる気持ちになる。

弘見は海軍の陸戦隊として上海作戦等で武功を立て、除隊後、八幡製鉄に入社したがこれも奔馬性の結核を病み、わずか二十二歳で亡くなった。長女のフミは七月六

七、再び水原基地の朝鮮人との思い出

水原基地には百人以上の朝鮮人が人夫として働いていた。みんな純朴で、いかにも田舎の人という感じだった。軍では彼らに食事を与えていたが、彼らの食器を覗くと我々兵隊が食べ残した残飯そのもので、豚の餌と同じようにごちゃ混ぜになっていた。私は日ごろ親しくしている炊事班の曹長に掛け合い、余っているんだったら最初からきれいな物を与えてやったら、どれだけ彼らが喜ぶか分からない。これからそうして貰えないだろうかと相談した。

曹長は物分かりの良い男だったので、分かったと言って翌日から私の言うとおりに実行してくれた。人夫たちは涙を流して喜んでくれた。同じ人間だ、差別は絶対いけないことだ。この朝鮮人たちにはキムチやモヤシなどのご馳走になった。心から気を許して接してくれた。復員してから我が家には在日朝鮮人がやって来るが、故国の親族からの手紙に、鶴田實の家を訪ねよと書いてあるらしい。

【かたおか・かずひろ。旧上村出身、愛知県】

くまがわの神さん仏さん②

狛犬の股間を覗いてみたら

宮原信晃

八代から坂本へ向かつて219号線を球磨川に沿って上っていくと、遙拝堰より上流の対岸に古田阿蘇神社がある。ここには、八代市内では最も古い江戸時代に肥前（佐賀）から船で運ばれ、ここで組まれた石の鳥居がある。1696年という建立から今まで、今回の平成28年熊本地震にも負けずにすくと建っている。

鳥居をくぐり数段の石階段を登ると両端に狛犬さんが参拝者を待っておられる。

神殿に向かって右の石の狛犬は口を開き、左の狛犬は口を閉じている。

陰陽といわれる形の違いが楽しめる。ここに書いて良い事が迷うけれども、口を開いた方の狛犬には、オチンチンがある。

戦前の狛犬の特徴か、はつきりと刻み込んで、立派な男根。つい、参りましたと頭が下がる。

口を閉じた狛犬は、じつと口を開いた狛犬を睨んでいるかのように、参拝者を招き入れる視線より、間違いない、口を開いた狛犬を威嚇するように、ガンつけている。

口を開いた方が男。口を閉じた方は女なのだろう。

て藤本五所神社へ行ってみよう。

やはりである。

女の狛犬は、男の狛犬をにらみ続けている。

「あんだ、心の浮気もゆるさないわー」と、女の狛犬の腹から声が聞こえそう。全身に春のきらびやか

な緑のコケをまとい、全身全霊で男の狛犬を睨む。

神社への参拝者は、そんな狛犬の間を何も気づかず拝殿へ向かっているのだ。

ご近所の年配の女性が畑で早朝から草むしりをしておられた。



にらみ合っている「藤本五所神社」の狛犬

今度は、ここから車で20分、球磨川の上流へ向かい、坂本駅の前を通つ

「この神社の事を皆さん、何と呼んでいますか」の私の問いに「五所宮」と教えて頂く。格調高い神社の名称である。「五つの神さんがおられるとです」とも。

肥前佐賀の石工の鳥居の下をくぐって、にらみ合う夫婦の狛犬の間を進み、二礼二拍で御参拝ください。

所かわれば、人吉市の中央の大橋を南に渡った所に老神神社がある。

この狛犬さんは、口を開いた方に、あれがあつて、口を開いた方に、あれがない。

どうなっているのか、今、老神さんにお詣りしつ、神さんにお聞きしております。

来月まで、しばらくお待ち下さい。

【みやらはら・のぶあき。人吉おおくま座の会事務局長】

楸邨の〈目〉― 根源への遡及

「加藤楸邨句集『望岳』」論

永田 満徳



『望岳』は加藤楸邨の遺句集で、平成八年七月三日に発刊された。個の内面の掘り下げという人間追求を第一義とし、停滞を嫌い、七十歳になっても句材を求めて海外を旅するほどの俳句一途の俳人であった楸邨の最後の句集ということで、集大成的意味をもつものではないかとひそかに期待しつつ、全句四四五句を精読した。果たしてその期待にたがわないう句集であった。この『望岳』が特に晩年近く楸

邨と親しくしていた大岡信によって組まれたことは適任であつたし、句集にとつて幸運であつたと言わなければならぬ。というのは、大岡が朝日新聞に発表した「加藤楸邨を悼む」という文章から、楸邨の最も良き理解者は他でもなくまさしく大岡自身であつたことが否応なく伝わってくるからである。大岡はそこで、加藤楸邨が天性の俳人ではなかったが、武骨、不器用な作者としてそのままみに全面開花し、円熟した俳人であつたと述べている。この文章が、故人に対して実に愛情と敬意のこもった追悼文であるのはむしろのことだが、短い文章ながら数多くの楸邨論の中でも際立つものである。しかも、『望岳』の評としても立派に通用するもので、新たな評を付け加える必要のないほどである。ただ、私なりに『望岳』の印象として特徴的なことに触れてみたい。

まず、そこには〈目〉に関する語彙が数多く見受けられ、楸邨俳句を理解する上での一つのキーワード的な役割を果たすのではないかと思われる。

啓蟄や抱けば目ひらくぬひぐるみ

梟の目実にしづかなものを見る

草にたふれし石像の目を蛾がかくす

墓あるく動かざる目をたたく雨

楸邨の〈目〉への注意、ありていに言えば嗜好を示しているのがこの四句である。

しばらくは恋猫の目となりてみむ

鳴かずある笹鳴の目を感じをり

出目金の破璃越しの目と睨みあふ

埋み火の底に蛇笏の目がありき

極月の征く友の大きな目がありき

五句とも他者の〈目〉を描いているが、一番の句は動物そのものに成り切り、二・三番の句は動物にさえ人格を感じる感覚の鋭さが感じられ、四・五番の句は対象が人間であれば〈父の目を以て嫁ぐ子を未枯に〉〈闇冴えて先生の目が前後左右〉という以前の句と同様に〈目〉でその人自身を象徴する奥行の深い表現となっている。

母、我を孕りし時、山梨県猿橋を越えしといふ、一句
目ひらけば母胎はみどり雪解谿
母胎にて見しは九月の甲斐駒か

〈母胎〉という語のある句を拾い出してみると、いずれも〈目〉〈見〉など視覚に関する言葉である。この句集から「見る」という動詞を見つけ出すのがそれほど難しくないのは、視覚的な体験が原初的なものであつたからに他ならない。ここに「人間探求派」に加えられながら、彼らと違った独特の地歩を築いていた秘密がある。

この原初的な視覚体験が楸邨の俳句観と不可分の関係にある。楸邨が唱えた「真実感合」という俳句理論で大切なことは、「見て見て見抜いて客観写生の限界から飛躍する」表現を希求したことにある。この〈見て見て見抜く〉力の根源こそが原初的な視覚体験であり、視覚的な言葉へのこだわりである。楸邨自身、芭蕉の「見えたる光いまだ心に消えざるうちにひとむべし」の〈見えたる光〉を捉えるものは、知的なものでは割り切れない根源的な本能的な

一種のデモンだと述べていることと関連していよう。視覚言語の偏用は生得的なものだったのである。

ところで、『望岳』が知世子夫人没年（昭和六十一年）から楸邸没年（平成五年）までの句であることの意味は大きい。妻に対する愛情が一貫して深く、妻の俳句的才能を伸ばし、同好の士のような間柄であった楸邸にとつての知世子夫人の死は、この句集の一つの主題を成しているときさえ言える。

打ちもらしたるごきぶりや遺影が笑む

忘れ霜つねに言ひたき遺影の口

知らぬ間に端居の中に知世子をり

かぎりひて知世子圓空を撫でてをり

一人身になった楸邸の〈目〉が知世子夫人だけでなく、自分自身に向けられてくるとき、「人間探求派」の句だけに読んでいて心が痛む。

風鈴とたそがれてゐしひとりかな
餅を噛むこのときまつたくひとりなり
春雷の終りに息をひとつ吸ふ
陽炎のつかぬ鼻あり我もひとつ

「ひとり」「ひとつ」などの〈二〉という数字に類縁の語が頻出するのも特色である。これらは孤独の相を帯びて、最後まで自分を詠むことをやめなかった二俳人の老いの姿を余すところなく描いている。老いた三島由紀夫を知ることにはできないが、老いた加藤楸邸を知ることができる。

加藤楸邸の写真を見ると、「目」は決して大きくなく、むしろ細目に近い。しかし、この楸邸の〈目〉こそが、根源への遡及を促し、大岡をして「楸邸はやはりあつぱれ天下第一等の俳人だった」と言わしめているのだと思いたい。

【ながた・みつのり。俳人協会会員、熊本市】

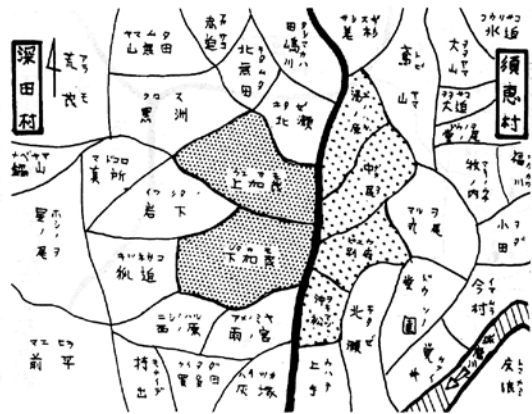
復刻
掲載

字図で見る球磨の地名 ④ 上村重次

加茂（カモ）

— 深田村（現あさぎり町）—

このシリーズ③で取り上げた須恵村字別府（ビュウ）に西隣するのが深田村



の加茂であり、上加茂（ウエカモ）と下加茂（シタカモ）の二小字に分かれている。近くの字灰塚（ハイツカ）は弥生遺跡地であり、その東隣の須恵村字上手（ウハテ）には元禄十二（1699）年銘の庚申塔と文明年間（1480年ごろ）の南無阿弥陀仏石塔が建っている。一帯は古くから開けていて、しかも村落の境域になってきたことが知られる。

加茂といえば京都の賀茂川（鴨川）や賀茂神社が思い出される。『萬葉集』

卷十一・2431の

鴨川 後瀬静 後相
いもはわは いまなるとも
妹者我 雖不今

と詠まれた鴨川は京都の賀茂川のことという。記紀には賀茂建角身命（カモタケツヌミノミコト）は神武東征のとき八尺鳥（ヤタノカラス）に化身して道

案内し、その賀茂氏が大和の葛城から山城の国に移つて神社に祀られ、氏族の居住地が賀茂地名になったというのが伝統的な地名説話である。

ところがカモ地名は全国的に数多く分布する。球磨地域の市町村字名で見ても深田村上・下加茂のほかには人吉市間字加茂木（カモキ）、同市大畑加茂野（カモノ）、五木村字入鴨（イリガモ）があり、五万分二地図地名集成である『日本地名索引』には約二〇〇件のカモ系地名がでている。『和名抄』の解説書として知られる『日本地理志料』は賀茂郡六件、賀茂郷十一件、賀母郷一件をあげている。

古代から全国にカモ地名が分布する事実から推して、賀茂建角身命との関係説は信用できない。建角という神名の用字を地名語で考えたとタテカドになる。菊池市立門（タテカド）や同市龍門（リュウモン）、菊池郡泗水町豊永字龍角（リョウウカク）などが同義地名

であり、いずれも境界域の地名である。

境界のことをカモと表現するのは何故であろうか。漢和字典を操りながら検討していたところ、身近かに使われている語があった。「構う」「構うものか」「お構いなし」などの「構」は構築、組み立ての意のほかに禁制や仕切線の意がある。所構（ところかまい）やお構いなしが禁制に由来する語で、敷地内を構内といい、村の入口（出口）を構口（かまえぐち）というのが仕切線（境界線）の表現であろう。相撲の仕切や「構えて」の掛け声も関係ありそうである。

土地区域の禁制は仕切線であるから境界表記に「構」が用字され「カマ」の発音が「カモ」になつて鴨の字が宛てられたように推定される。土地区域を守ることは境界に構うことであり、現代語のコダワリであろうか。

薬師堂で永正八年（1511）の紀年銘のある木彫薬師如来座像を発見し、感激したことを今でも忘れない。ただ、当時は地名には関心がなく、入鴨の名称由来について考えることはなかった。

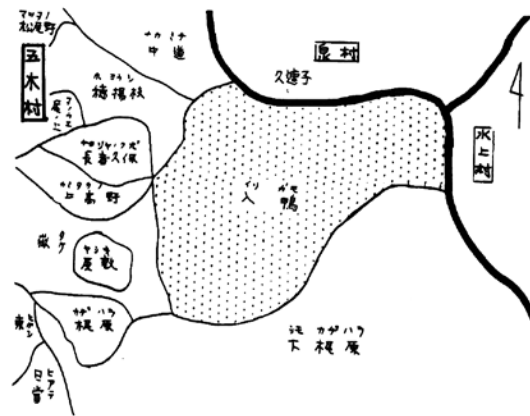
五木村字図によると、入鴨は水上村および八代郡泉村久連子に接する山奥の辺境であつて、近代の森林開発（伐採・造林）は遅れた地域である。にもかかわらず中世の立派な木彫仏像が存在しているのは、この地区には早くから人々が住みつき、集落を形成していたことを物語っている。この点を地名と関連づけて考えると「鴨は構の転化で禁（シメ↓標）を意味する語」という説とは矛盾するようにも思えるものの「入」を禁の反対語とみれば「入つても構わない土地」即ち入会山ということになる。

朝鮮半島38度線には各3キロメートルの緩衝地帯が設定されているように、境界には無主の地・催合（もやい）地が存在するのが普通であり、国有林の多くは

入鴨（イリガモ）

— 五木村 —

京都の賀茂川は鴨川とも書かれ『萬葉集』の歌でも鴨川と表記される一方では、その神社に祀られる神の名は賀茂建角身尊であることを述べた。即ち古代から賀茂と鴨は同義に用字されていたわけである。



県郡村境の緩衝地帯であつた。

京都鴨川ほとりに先斗町（ポントチョウ）という変わった地名がある。ポルトガルからの渡来人居住区にちなむ名称とされるが、先斗をポントと読ませるのは地域の先端（さきつちよ）の意味である。先斗町一帯はかつての鴨川河原であり、無主の地、即ち構いなしの入合地であつて、外来のポルトガル人を河原者扱いして居住させた所と理解される。

鎌別府（カマノビフ）

— 多良木町久米 —

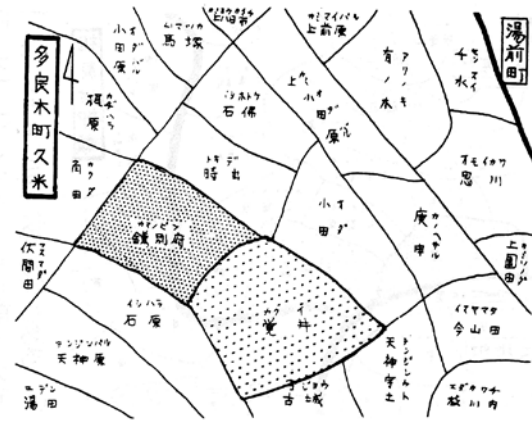
土地区域の境界表現である構地名のカマがカモに転音することを五木村入鴨の例でのべたが、構は鎌にも変化する。多良木町久米字鎌別府は幸野溝左岸に面する。別府地名については③で境界標、（しめ）の転化であり、お尻のことを球磨方言でビュウと言うのと同意であろうと記した。方言の視点で考えると

水辺に住む渡り鳥の鴨をカモというのは、フルネームのカモドリの下略であつて、その語源は「浮かぶ鳥」「浮かむ鳥」の略転と『大言海』は記している。鴨は海浜だけでなく山間地の池沼などにも飛来し、古代から人々に親しまれ、その名称もあつたのであるから、鴨の飛来地に由来する鴨地名が存在する可能性を否定することはできない。五木村入鴨の「入」を入来、入国などの用例から考えると「カモがやつて来る」という意に解され、カモの飛来地になんだ地名のように思われる。『五木村学術調査』人文編の第一章 生活語彙・第一節 地名語彙は入鴨をカモに分類し「カモは蒲の生えている水辺」としているが、納得できる説明ではない。入鴨には川辺川支流竹ノ川水系の溪流はあるが、蒲の植生や鴨の飛来に適した池沼は見当たらないのである。

昭和三十八年、筆者は入鴨の仏堂調査を行った際、善能寺跡と伝えられる

鎌別府は鎌尻のこととも思えるが、鎌を構の転化と仮定し、構標（かまへのひょう）境界標の転化とみる方が論理性があるように思える。もちろん鎌尻（境崎と同じ）としても結論は同じである。

字図を見ると、鎌別府の西隣は字角田（カクダ）で、幸野溝である。この付



近の字界は直線状になっているが、これは幸野溝開削に伴う字界の変更が考えられる。この一帯は旧久米村の村域であるが、古くは幸野溝の左右岸に当たる地域は別々のムラだったのではなかろうか。

幸野溝石岸の字角田は「角ばった田」とか「四角形の田」という意味ではなく、カドタ（門田）のことで、ムラの境地を表す字名であろう。旧久米村の字名は八十件あり、県平均の一村当たり字数の約三倍という点から、旧久米村はかつて二〜三村に分かれていたため、大字界でもない所に村界表現の地名が残っていると判断される。

球磨地域にはカマ地名の原形である構を用字する小字がないので、鎌地名は構地名の変化形と言っても理解しにくいであろう。そこで他地域の構地名を紹介しよう。

下益城郡富合町杉島字構口（カマエクチ）は緑川左岸にあり、対岸は熊本

市川尻町。同郡城南町宮地字構口（カマエクチ）は隈庄との大字界。熊本市旧河内町大田尾字構ノ元（カマエノモト）は旧北部町との境界。下益城郡松橋町豊川字構ノ内（カマエノウチ）は両仲間との境にあり、役所が敷地のことを構内（こうない）というのと構ノ内という地名が同根の語であることがわかる。水俣市石坂川字奥構（ヨクカマエ）は旧久米野村との境界地で「村奥の境地」という意であろう。

カマエ地名変化形の傑作は、菊池市長田字尺八（シャクハチ）であろう。ここは同市西寺および七城町と境する水田地帯。境を尺八と表現するのは、鎌柄（かまへ）が一尺八寸（尺八）だからである。眉ツバと思われるが、大分県日田市・下毛郡山国町・玖珠郡玖珠町の境域に一尺八寸山（ミオヤマ・707び）があつてナゾ解きができた。この山は境山である。ミオはミオツクシのミオで境界標のことであろう。一尺八

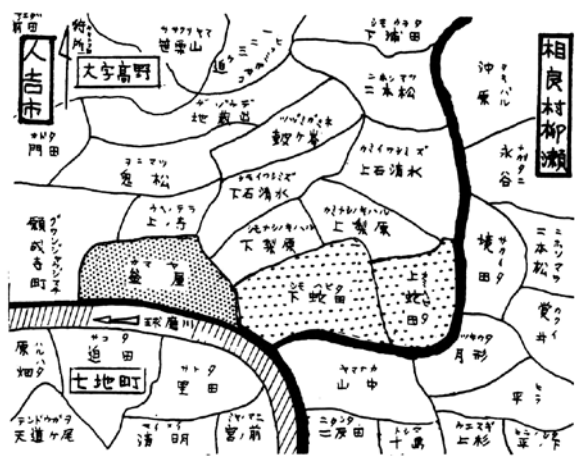
寸は鎌柄の別語。三つの語が帰着するのが構というのがわかつて、ひとりエツに入つたのはつい先ごろのことである。

釜屋（カマヤ）

—人吉市旧大村—
人吉市の観音寺横から高速道下一帯にかけてが旧大村字釜屋であり、現行の行政区名では大字高野字釜屋になっている。

球磨川の断崖が字界で対岸は七地町字迫田（サコタ）。釜屋の東北部は上・下梨原（ナシノキハル）で、このシリーズ①で紹介した相良長頼が願成寺の掃除料として寄進した梨原（なしのきはら）のことであろう。北西は願成寺境内と接し、北側は字上ノ寺（ウエノヱ）である。

上ノ寺には貞治年中（1362〜68）第六代相良定頼が創建した無量寿院専念寺があつた。（拙著『九州相良



の寺院資料』。この寺は願成寺上の台地にあつたところから「上ノ寺」と俗称されていたのが地名化したわけである。相良氏と関係の深い寺院に隣接する地域であるところから一帯は門前町のよう繁華街が形成され、釜を商う店が営まれ、その店が有名になって釜屋地名

となつた、と考えるのは早計に過ぎよう。

先般、字上ノ寺から約八千年前の縄文早期と推定されるカマド遺構が発掘されたが、このカマドと字名を結びつけて考えるのはナンセンスである。

字図でわかるように、釜屋は旧大村の東南端に位置する境界地であつて、釜屋は構の転化であることは否めない。

問題は「屋」である。『大言海』には屋は住家、商工の家、屋号などの意のほかに「接尾語の如く添える語。シマリ屋仕末屋」の例をあげてある。地名の視点では隅つこのことを隅屋（スミヤ）とか、瀬戸（狭処）をセドヤという類であろう。

従つて釜屋は構と同じことになるが、カマエの工がヤに転化して構屋↓釜屋の宛て字になった可能性もある。お前（オマエ）↓オミヤ、当り前（アタリマエ）↓アタリミヤなどの例もある。いずれにしても釜屋は境界標の構に由来する地名とみて矛盾点はみられない。

相良氏の菩提寺である願成寺の初めの山号は山崎山と称し、人吉城の丑寅（東北）の鬼門に当たるとともに、この地は昔から伽藍の霊地であつたので寺地に選ばれた、というのが諸書に一致した願成寺立地説である。「昔から伽藍の霊地であつた」というから、付近には相良氏入国前からの寺院が存在したのである。

現在、上ノ寺台地と呼ばれる高台は古くは山崎山と称されたのであろう。この台地の先端部に字釜屋という境界地名が残っているのは、一帯が境地として重視され、境域守護の聖域になつたことをうかがわせる。

たかが地名、されど地名であつて、郷土史の見直しは地名研究から始めなければならぬ。

【うえむら・しげじ、宇土市生まれ、元熊本日日新聞社記者】

情報・ピックアップ

プラモデル作ろう コンテスト作品募集

あさぎり町の「おどろがプラ
モコンテスト」実行委員会は今
年もプラモデルコンテストの作品
を募集している。

同コンテストは、夏休み期間
中の8月21日から28日まで展示
し、観覧者の投票で入賞者を決
めるもの。中学生以下のジュニア
高校生、一般の3クラスがあり、
各クラスの上位3位までを表彰
する。

作品は市販されているプラモ
デルキットを組み立てたもので、
未発表のものに限る。一人で複数
出品できるが、不安定なものは
安定して展示できるように工夫
すること。

作品受付は、あさぎり町免田

のポッポ1館で、8月20日午前
9時から、受付後に同館内展示
スペースに飾る。出品手数料は
不要。

映画『スクール・ オブ・ナーシング』 8月に人吉市で再上映

一昨年の秋に人吉市内を中心
に撮影された映画「スクール・
オブ・ナーシング」の再上映が
夏休み期間中の8月1日（月）
から8月7日（日）までの一週間
復興支援チャリティ上映会と
して、ひとよし森のホールで開
催される。

お問合せは同ホール（☎
0966・22・4007）まで。

舞台「月光の夏」

創立50周年の記念公演

ひとよし・くま市民劇場創立
50周年の記念公演「月光の夏」
が8月4日（木）、人吉市カル

チャーパレスで上演される。

この「月光の夏」は会員でな
くても鑑賞も可能で、料金は一
般2000円、学生が1000
円。お問合せは☎0966・
22・7040の事務局まで。

読者の声

※この欄への投稿を募集しています。
巻末の編集部宛にお送りください。

『くまがわ春秋』手にして

5月号、ボチボチ読み返して
ようやく完読。元熊日記者さ
んの「字図で見る球磨の地名」
が面白かった。オコゼ（起瀬）、
ヒヨゴエ（日代越）は博識がな
いと書けない専門的なお話で
あった。

6月号の前田一洋さんの「方
言を味わう③『おどましら〜
ん』に拍手喝采！面白かつ
た、というよりも、またひとつ
勉強になった。それは、「認知

症」の原因は「幼老関係構築
が消えてしまった」からではな
いかと推測されている点であっ
た。なるほどガツテンの「目か
らウロコ」であった。

（熊本市 佐伯勝利）

6月号受領。巻頭言の「台
風、大雪、地震、そして梅雨」
を拝読。美文である。農業をし
ている関係で、最後の段落は正
に当を得ている。私も梅雨に感
謝しています。

（山江村 松本佳久）

外来語から学ぶ英単語 (4) …… 藤原 宏

ボイル ・ ボイラー ・ ボイリング ・ ボイルド
boil boiler boiling boiled

「boil（ボイル）、沸騰する（させる）・煮る・ゆでる」の語源はラテン語の「**bull**a（ブッラ、泡）」で、**bowling**（ボウリング）競技の球 **bowl**（ボウル）と同根となっ
ています。

boiler（ボイラー）は「**boil** する人・もの」のことで、「煮る人・煮沸する人・
煮沸器・蒸気缶・給湯タンク」などの他、アメリカでは蒸気機関車や古いおん
ぼろ車などの意もあります。

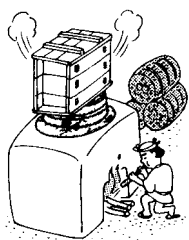
boiling（ボイリング）は、動名詞としては「**boil** すること・沸騰」のことで、
沸騰点は「**the boiling point**」といいます。また、現在分詞としては「**boil** して
いる」の意で「**boiling water**（ウォーター）沸騰している水」のように使います。

「**boiled eggs**（ゆで卵）」、「**boiled potatoes**（ゆでジャガイモ）」の **boiled**（ボ
イルド）は「**boil** された・ゆでられた」意の過去分詞形です。

boiling や **boiled** は、比喩的に人が「煮えくり返るほど怒って」の意でも使い
ます。

(369)

匠の枝



御膳醬油

（だし入り万能しょうゆ）

◆玉子かけご飯
◆豆腐
◆お刺身に

300ml 650円（税別）



◆みそ煎餅
477円（税別）



◆納豆みそ
477円（税別）



人吉散策コース 九州和食 蔵めぐり
みそ・しょうゆ蔵



合資会社 釜田醸造所
会長 釜田元嘉
社長 釜田元嘉

〒868-0001 熊本県人吉市鍛冶屋町16
電話 (0966) 22-3164
FAX (0966) 22-3165
メール info@marukama.co.jp

インフォメーション

- 7月13日(水) △「地域の安全を考える会」(人吉市東西「ミセン」)
- 7月17日(日) △水上村 Summer Music Festa
△オム(シムター)「や」座公演「口は口ボットの口」(八代市厚生会館)
- 7月21日(木) △求麻郷土研「第2回夏の研修会」(錦町温泉センター)
- 7月22日(金) △「う」の健康相談(人吉市保健所)
- 7月23日(土) △相良藩子ども塾「日本遺産く子どもたちが学ぶストーリー」(青井阿蘇神社集合)
- 7月24日(日) △第15回「夜の」人吉ふれあい百貨商店街(人吉市中心部)
- 7月26日(火) △人吉球磨児童による童話発表会(人吉カルチャーパレス)
- 7月26日(火) △第7回人吉フットサル大会(人吉スポーツパレス)
- 7月30日(土) 第11回八代市童話発表会(やつしろハーモニーホール)
- 7月30日(土) 土用の丑
△第27回リバーフェスティバル「サガラツパ祭り」(相良村)
- 7月31日(日) △日奈久温泉「丑の湯祭り」(日奈久温泉街帯)
- 8月2日(火) △急流と鍾乳洞の里まつり(球磨村球磨洞帯)
- 8月2日(火) △弦楽アンサンブル「第5回定期演奏会」(あさぎり町深田せきれい館)
- 8月4日(木) △青井さん夏越し祭(青井阿蘇神社)
- 8月6日(土) △ひとよし・くま市民劇場創立50周年記念公演「月光の夏」(人吉市カルチャーパレス)
- 8月6日(土) △永国寺「ゆづれい祭り」(人吉市土手町)

※天候などの影響により中止・延期になる場合があります。

次号予告

球磨川大好き!「源流水リレー 20 周年」

編集後記

地震関係の記事を今月号も多く掲載した。現実には体験・経験しつつある問題に人間の関心は集中するのであつて、それをすくい上げることに小誌の課題がある。それぞれの個別的テーマをあつかつていくようにみえても、そのひとつひとつはつながりあい、地震という災害のなかでの人間の課題性を相互補完的に示す。たとえば木崎さんの作品は地震研究者の生涯を描いていた小伝であるが、地震という災害の場で研究者はいかにあるべきかを鋭く問う内容で多くの紙面をこれに充てた。★大学などの研究室のタフだけが地震のメカニズムに関心を寄せるわけではない。名前の「研究者」は不要だ。現実には発生している問題に正面から向き合うことに意味がある。つる詳子さんはまぎれもなく、それを実践している。坂本地域の地震をまともに取り上げた論文・資料は他に少なく、つるさんの投稿はまさに画期的である。★地震だけが災害ではない。球磨川流域に住む者には水害がいつも課題になる。そこで水害にかかわる記事も掲載した。結果的に、災害だらけの誌面に近くなった。しかし、そういうときも必要だ。

〒868-0086

熊本県人吉市下原田町瓜生田675-3

「くまがわ春秋」編集部 info@hityoshi.co.jp

☎・FAX 0966-22-7601



たけだ眼科クリニック

院長 竹田 憲司

人吉市南泉田町39 ☎23-3096

めがね・コンタクトレンズの

アイウェア

(たけだ眼科ビル内) ☎0966-23-3097

デイサービスセンター

ケアプラン作成所いずみ
(居宅介護支援事業所)

いずみ

協力医療機関 たけだ眼科クリニック

人吉市南泉田町70番地の3 ☎0966-28-3307

すべての人を自分の親だと思って...



- 特別養護老人ホーム
- 短期入所生活介護
- 通所介護事業所
- 居宅介護支援事業所

社会福祉法人 天雲会

龍生園

〒868-0086 人吉市下原田町瓜生田1057-9

施設部門 ☎0966-22-6621 FAX 0966-22-6622

在宅部門 ☎0966-22-2141 FAX 0966-22-2183

<http://park5.wakwak.com/~ryuseien/>

e-mail: tenunkai@ab.wakwak.com